

税 労 第 62-105 号
令和 4 年 7 月 22 日

各地区本部執行委員長 殿
中 央 執 行 役 員

日本税関労働組合
中央執行委員長 倉 本 和 邦

第 62 期第 8 回拡大中央執行委員会議事録について（送付）

このことについて、議事録を作成したので、別紙 1 のとおり送付します。

第 62 期第 8 回拡大中央執行委員会議事録

1 開催日時 令和 4 年 7 月 9 日 (土) 午後 1 時から午後 5 時

2 開催場所 会議するなら及び各地区本部又は自宅 (ハイブリッド開催)

3 出席者

[中央執行委員長]

倉本和邦

[副中央執行委員長]

堀田将恵 (WEB)、齋藤雅記、原川佳也

[中央書記局]

鈴木宏彰 (書記長)、村岡和弥 (書記次長)

[中央執行委員]

武田靖 (WEB)、三浦慎也、浅野浩一 (WEB)、太田美菜 (WEB)、秋山浩一、佐藤裕一、浦中篤、福本一也、呉屋堯歩 (WEB)、新里薫 (WEB)

[地本委員長]

前田義徳、仲野裕幸、河野宜久 (WEB)

[オブザーバー] ※議決権なし。発言権あり。

北出淳一 (WEB)、福田辰紀 (WEB)

4 議題

(1) 第 63 回定期大会関係について

(2) 第 63 期中央執行委員定数について

(3) 専従者役割ローテーションの確認

(4) 各地区本部情勢報告

(5) その他

5 議事内容

○中央執行委員長挨拶

- ・昨日、いきなりの訃報だったと思いますが、安倍元総理の訃報がございました。岸田首相も挨拶で言われていましたが、民主主義の根源たる選挙が行われている中で、安倍元総理を狙った卑劣な犯行が行われた、断じて許せるものではないと改めて非難しており、本日の街頭演説の方もですね、自民党や公明党の候補者の方は、軒並み街頭演説を見送るといった形で、縮小された形での明日の投開票日を迎えることになっております。昨日、元首相を狙った銃器については、お手製のものだったということですが、それが逆に既製品だった場合、水際である我々税関がですね、しっかりと水際で止めて、そうい

った事件が起きないように、やっていくべきものなのかなと思っております。また、引き続きこういった事案が起きないよう、爆発物の原料となるものを輸入させないとかです、そういったことも含めて皆さん業務の方をしっかりとやっていただきたいと思います。

- ・新型コロナウイルスの感染者についてなんですけど、先週あたりから感染者が非常に増加しているという状況にございまして、税関の職場においても先月中旬以降感染者が増えている状況にあります。更には梅雨も明けており、気温の上昇によって、熱中症についても気を付けていかなければならない状況が続きますので、皆様におかれましても、引き続き体調管理も含め、健康には留意いただきたい。
- ・現執行体制となって、残り2か月余りとなりましたが、我々も今期の活動の総括を行っていく時期に差し掛かっています。中央の方もホームページの内容についての更新や掲載内容の充実、また、人事院作成の職員団体についての説明資料についても今後共有していこうかなと思っておりますので、新人加入懇懇、コロナの中、中々この2、3年できていないというところがあるんですが、そういった懇懇に役立つ資料の共有も含め、何かしらのお手伝いができればと思っておりますので、新人加入懇懇もそうなんですけど、7月異動後の未加入者への加入懇懇もしっかり、引き続きご協力をお願いします。労働組合は、組合員一人ひとりの協力や参加があつてこそ存在し、ただ単に集まるだけでは機能いたしません。組合役員が組合員を導くことで初めてそれは機能し、力を発揮します。地本委員長、書記長には引き続き苦労をおかけいたしますが、改めてよろしくお願い致します。
- ・我々の給与についてですが、本年度の人事院勧告が来月に入り、結果が出るかと思われませんが、今年の連合の賃上げ状況、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響などによる物価高の上昇もあり、今年度はぜひ賃上げをという声を現場の組合員からは聞いておりますので、我々中央も上部団体の交渉などを通じて状況が分かれば逐一情報発信致しますのでよろしくお願い致します。参考までに、連合による春闘の集計結果については、7月5日に2022春季生活闘争第7回回答集計結果が出ており、今後の春闘闘争のまとめが発表されると思います。第7回の集計結果の一部内容をかいつまみますと、賃上げ部分が明確に分かる2,213組合の賃上げ分は1,864円。昨年同期比でみてもプラスになっているといったところで、賃上げ分については、2015闘争以降で最も高く、中小組合の健闘ぶりを示しているといった状況もございまして、今年度は是非賃上げができるよう我々もしっかりとしていきたいと思っております。また、現在までの状況については、全印刷、全造幣の調停作業が先月22日にあり、そちらの方に書記長の方が立ち合いをしております。書記長の方から報告するようなことがあればお願いいたします。特にないでしょうか。

[鈴木]はい。

- ・あと、私から書記長に1点確認なんですけど、中央執行委員会の議長なんですけど、昨日書記長から非常に強い口調で「議長は委員長がするものだ、お前は何もわかっていない」と叱責されました。規約にも私確認しましたが記載されていないので、その根拠について教えていただけますか。私としては、委員長から指示があれば、委員長がやる、

書記長がやる、どちらがやってもいいと理解しているのですが、その認識が間違っているのであれば言ってください。来期、齋藤さんが書記長で来られますので、そちらの方も含めてご教示いただくようお願いします。

[鈴木] 私は書記長なので、項目で提案しているところを述べて、発言についてはやれるところはやっていましたし、委員長来たばかりで、そこらへんは仕切れないと思っていたところもあったので、自分自身でやってはいましたが、そもそも戻ってみれば、仕切りは委員長でもいいんじゃないかなと思って言っただけですけど。

[倉本] お前は何もわかっていないのかというのはどういうことでしょうか。

[鈴木] まあ、委員長がやればいいんじゃないですかって言っただけです。

[倉本] いや、そういう優しい口調じゃなかったです。「お前がやれ」だったですよ。

[鈴木] ふふふふ。

[倉本] 私がやれって言ったことにちゃんと従わないということですよ。

[鈴木] そうですね。人のこと四の五の・・・。

[倉本] あー、分かりました。はい。以上です。こういう状況です。

(1) 第63回定期大会関係について

鈴木書記長から、現状について以下のとおり説明があった。

- ・現状、3年前（コロナ前）と同様に、2泊3日（6月16日から18日）のスケジュールで東京グランドホテルに仮予約中（見積書のとおり。先ほど、委員長からもあったように、コロナの感染者が増えてきていることもあり、今後も第6派を超える第7派も叫ばれていることから、書記局としては、キャンセル料がかかる来週までを踏まえて、資料のとおり提案している。

以下、質疑。発言ママ。

[齋藤] 改めてなんですけど、この2泊3日で考えているやつの進行をどういう風にやるかっていうのをもう一度改めて説明してもらっていいですか。

[鈴木] 長く中執をやられている方は、ある程度頭に入っていると思うんですけど、16日の10時くらいから開催し、食事の前に来賓等の挨拶を含め、午後から書記局の方から議案について、議案書に基づいて提案させていただきつつということですね。初日の夕方までは、議案書の提案のみで終わりで、そのあとレセプション。翌日、朝9時から12時までに関して、審議を行って大会を終了。12時以降に関しては、そのまま大会の総括で第1回中執という整理ですね。その間、青年の方が別部屋で総会をやっておりますので、青年の新しい青年委員長等の承認も第1回の中執に含まれると。来期の役員の方は、そのまま中執を翌日の午前中まで第1回中執を引き続きやって、そのまま解散というようなスケジュールです。同じようなことができるような仮予約となっております。

[齋藤] ありがとうございます。

[浅野] 私からもいいですか。書記局提案では、レセプションについては中止したいと

書いてあるんですが、見積書の方に、懇親会費 120 分飲み放題費って書いてあるのは何ですかね。

[鈴木] 一応、それも含めての見積りを取っただけですので、やるとすれば費用的にはこれだけということです。ただ、書記局としてはやるべきではないかなということで、そういう書きぶりにしています。

[浅野] 一応、今のところこれはバツサリ切る予定ということですよ。

[鈴木] はい、その通りです。

[浅野] 実際、先ほど書記長からありましたとおり、昨日東京で 8,777 人で、これから増えていく、第 7 派でこれからまん防が出るというときに、状況がどうなるかわからないですけど、大会を対面で開けるもんなんですかね。そこが非常によくわからないところで。15 日までだったらキャンセルできるけど、それ以降だとキャンセル料が発生してしまうという状況であれば、今から予約を取っていく必要ってあるんですかね。もちろん早く予約すれば、早割で何%OFF なのかもしれないですけど、どうせコロナになれば会議をやる人なんて早々いなくなるだろうと、甘い考えなのかもしれないけど、そういうことを考えれば、今から予約を取る必要性っていうのはどこにあるんですかね。

[佐藤] 浅野君さ、それ前回の中執議事録見た？

[浅野] 前回の中執の議事録ですか？

[佐藤] お前出てなかったよね？中執の議事録見た？

[浅野] いや、見てないです。

[佐藤] じゃあ、ぶり返すか？前回は。ねえ、堀田君。前回、ぶり返そうか？

[堀田] 前回、色々ありましたよね。

[佐藤] おう。ぶり返そうか？浅野君分かってんのかな？その辺。前回どういう状況だったか。

[堀田] それを含めての、今回あれじゃないですか。コロナ禍で感染者がたくさん増えているんで、それでも大丈夫ですか？っていう話なので、中央委員会の話とはこの時期もありますので、またいつもの話になるんですけど、そこを含めて検討した方がいいんじゃないですか。

[佐藤] どうなの。え、ぶり返すの？また。やる？またぶり返す？前回と同じように。東京地区本部をまた責め立てようか？前回みたいに。

[堀田] ちなみに東京地区本部は、今回東京の定期大会は、代議員は分会長プラス 1 名のみにして、委任状形式にして、時間も短縮して、縮小開催の方向です。

[原川] 対面ではやるってことだよ？今の話だと。

[堀田] 対面ではやりますけど、50 人くらい入る会場に、15 人くらいで、広く感染症対策を施しながら。これは東京の話ですので、今ここでは一旦やめます。

[福本] 今の時点でまん防とか言い出したら誰も何もわかんないんですよ。

[秋山] でもこういうのは、前もって事前にやるべきだろ？起きてからじゃおそいんだよ。先を読むのもあなたたち執行部の役目じゃないの？

[齋藤] それでもやったよね？東京。

[秋 山]なにを？やってって言うけど、他のところだってやってねえじゃねえか。やったやったって言って。

[一 同]は？

[鈴木]秋山さん、前回の話は、議事録にもあるように、中央委員会をやるべきではないという東京の総意の中で、それにも関わらず、東京が地区員会を開いたというだけの話なんです。で、そこは論点として、東京の言い分はあったにせよ、堀田委員長がその場において、各地区本部にやったという事実と、それはなぜかという経緯も説明させていただいて、一応そういうふうな整理はしました。とは言え、今回、大会をやるにあたって、予約自体は、去年の時点で会が終わった時点で仮押さえをしているので、直近になってこれをしたってわけではないのは、浅野中執には理解して欲しいんですけど、その中で、そういう状況も踏まえて、どうするっていう話なので、別に東京さんが今、まん防の状況をみたときに、対面どうするって話は、自然に出てもおかしくはないと思います。その辺も踏まえて、皆さんの意見を聞かせてもらえればと思っているので、別に前回の議事がどうとかっていう、前回の話を踏まえて、言うべきか言うべきじゃないかといえ、言っていたいでも全然問題なかったと思いますけど。その辺でまた振り返すっていう、佐藤中執の意見がよくわからないんで。

[浅 野]私が言いたいことっていうのは、要はやるやらないっていうのは、定期大会というのはやらないといけないと書いてあるから当然やるべきなんでしょうけど、この状況でどれだけの規模にするとか、東京も規模を縮小してやりますけれども、中央委員会と違ってやらないといけないというというのは当然分かっています。そのうえで、今から予約する必要があるんですか。キャンセル料かかるのを覚悟の上で。今から予約する必要があるんですかというところ。

[佐 藤]予約しないと会場押さえられないじゃん。

[鈴木]会場の押さえは、去年の定期大会が終わった時点で、こういう仮予約をしていた。で、新しくとる必要があるかっていうこと？

[浅 野]今の段階で仮予約から予約にする必要があるんですか？これからコロナ出てきて、例えば、まん防なりなんなりで規模を縮小せざるを得なくなってきたっていうときに、これから会議をやるというような人は、多分少なくなってくると思うんですよ。そうなったときに、別に今からじゃなくたって、会場なんて押さえられるんじゃないのっていう、甘い考えなのかもしれないけど、私のイメージ。だとしたら、例えば1か月前にどのくらいの規模にするっていうのを改めて決めて、もちろん公示の期間ってのもありますけどね。そういうのも含めて決めて、そっから押さえにかかればいいんじゃないですかっていうことを言いたい。

[原 川]まず、公示のときに大会の場所を決めていないと公示できないんですよ。日時と場所と時間。そうなってくると、ホテルも例えば一つの部屋を押さえるにしても、1か月前だと間に合わない可能性があるわけですよ。だから、仮予約、予約と、1年以上前から押さえているんで。それを考えると、キャンセル料が

発生するって言うのは、正直個人的に言わせてもらえれば、金で解決できるんだったら、予約しといた方が良いんじゃないかというのが私の考えです。で、今は予約云々よりも、大会をどうやって開くかっていう方が建設的じゃないでしょうか。以上です。

[鈴木] はい。私の方もその辺踏まえて、今の皆さんのご判断を仰ぎたいということ。東京の浅野中執の話も当然踏まえるんでしょうけど、その辺も含めて皆様にお話しを伺いたいというところではあるんですが、そこら辺を含めて屈託のない意見をどんどんいただければと思うんですけど。

[秋山] そんな金いっぱいあんの？ 余裕あんの？ 皆のお金集めてそんな余裕あんの？ 自分の金じゃねえから言うかもしれないけどさ、少なく少なくやるのが普通じゃねえか。こんな状況で増えている一方でき、先読みしてわかるんじゃないの。

[原川] 増えている一方って言いますけど…（秋山割込み）

[秋山] じゃあお前責任取れんのか？ 増えて先を読めなかった責任取れんのか？

[原川] そんなときになって初めてやればいいじゃん。

[秋山] ここに出てるさ、選ばれて出ている人たちが考えてやるべきだろ？ 君たち頭いいんだからさ。

[原川] だから、今考えているわけじゃないですか。それを東京さんは、開催しないありきできているわけですよね？

[秋山、鈴木] 開催しないありきじゃない。

[鈴木] 対面はどうだっていう話。

[浅野] 開催しないありきではないです。開催はせざるを得ない。それは、規約に書いてあるんだから。中央委員会とは違う。

[秋山] ある程度は、みんなから預かった金を少しでも使わないようにしてさ、それを運営していくのが、あなたたちのコレじゃないの？ 俺らだって、前に言ったけどさ、応援団やった時だってさ、どんなけ皆からお金集めた。7万人いてさ、相当会費もらったよ。だけどそれはみんなのお金だからって、極力みんな抑えて抑えて抑えたよ。先読みして全部。ダメならダメで、キャンセル料発生する前にキャンセルした。後になって、そんなときにやればいいやって。そういう風にやってきた。少しでもみんなに返してやろう、少しでもみんなに還元してやろうってやってきた。来年会費なしにしたりとかね。そういう風にやってきた。それはなんでかっていうと、みんなで集まって知恵を出せばやれるんだよ。だったらあなたたち頭いいんだからさ、わかるはずだよ。俺なんかより全然頭いいんだから。だったらそういうところ少しでも抑えるところ、抑えてさ。前進めればいいじゃない。そんなときになってからやればいいじゃない。そんなときにお金かかるんだから。どっちみち。キャンセル料かかるんだったら、そんなときになってからやればいいじゃない。そのときにお金かかるんだからどっちみち。キャンセル料かかるんだったらそんなときにその分お金出せばいいじゃない。違う？ 言ってること。そうやって俺は7万人会員集めたよ。

[原川] 7万人っていう話は関係ないですよ。

[秋 山] そうやって実績を作って、ヤクルトスワローズで。断固たる組織を作ったよ。だから組織っていうのは同じじゃないか。ここでもなんでも。

[齋 藤] ここでのやり方について、自分で説明してくださいよ。今、話し合っているんですよ？

[秋 山] だから、だったら少しでもそういう方法を考えた方がいいんじゃないかって言ってるんじゃないかよ。

[齋 藤] それはそれでわかりましたよ。

[秋 山] それをお前、キャンセル料払うとかどうのこうのとか自分の金じゃねえからそういうこと言えるんじゃないかかって思ったから俺は言ったんだよ。金額が金額だろ。結構デカイ金額。じゃあお前自分で責任持って俺が払うからそういう風にやるって言えよ。そこまで言うんだったら。男だったら言ってみろよ。俺、会長の時にやったよそれを。

[原 川] それを話し合っているわけですよね？

[秋 山] だったら言えよ。そこまで言うんだったらやれよお前。男だったら。ケジメ取れよ。お前。

[福 本] キャンセル料かかるっていうのがあるんですけど、キャンセル料っていくらなんですか？

[秋 山] 言うだけ言うんだったらちゃんとやれよお前。

[鈴 木] ここに書いてありますけど、旅行代金の 61 日前だと 10%。

[秋 山] 口ばっかじゃなくてよ。

[鈴 木] ですから 26 万くらい。

[秋 山] 腹くくれや。

[鈴 木] 1 週間前だと 3 割。決してそれは安い金額ではないので。

[秋 山] (何か言っている)

[齋 藤] 悪いけど、黙れお前は一回。

[秋 山] うるせえなあ、てめえはこの野郎。

[鈴 木] いいじゃないですか。

[一 同] 待って待って待って。やめましょう。

[秋 山] てめえが向かってきたんだろうが、今。俺動いてねえぞここから。てめえが来たんだろうここに。なに言ってんだてめえが挑発して来たんだろうがここに。そうだろう、俺ここから動いてねえぞ。他のやつ皆動いてねえぞ。こいつが自分から挑発してこっちきたんじゃないかよ。てめえ、何様なんだこの野郎。お前。ああん。挑発しておいててめえ。てめえが火に油を注いだんだろこの野郎。そこで言えばいいだけの話だろうが。なんだお前。ああん。舐めてんじゃないかぞお前。

[鈴 木] 秋山さん一回クールダウン。気持ちはわかるから。ね。クールダウンしよう。

[秋 山] 調子こいてるんじゃないかぞこの野郎。しばくぞ。

[鈴 木] 原川のあれでイラっとしたのは、わかるかもしれないけど、それはそれで、ここは一回クールダウン。

[秋 山]言うだけ言って、男ならやれよ。ケツ持てよ。

[鈴 木]そこはわからんではないけど。ちょっとクールダウン。

[秋 山]お前らなんかよりどれだけ俺なんか修羅場くぐってると思ってるんだ。

[佐 藤]書記局提案のとおり、ハイブリットでやろうよっていう前提で進めるんですよね？

[倉 本]進めるんで、会場は会場でちゃんと使うし。

[佐 藤]代議員さんは、もしも来たくなかったら、来なくていいよってやるんですよね。

[倉 本]そうそう。っていう感じでやるので、キャンセル料は考えなくていいと思っている。

[佐 藤]それで進めればいいんじゃないかねのって思うんだけど。なぜそんなに浅野君があれなのかなあと。

[倉 本]そう。キャンセル料がとかね。予約がとかね。それは別に関係ないと私は思うんですけど。

[佐 藤]秋山さん言っているみたいに確かにね。金の話はあるけれども。

[倉 本]それは会場を使わない、すべてハイブリッドでやるっていう形になればもちろんそれはキャンセル料がかかります。けども、グランドにも会場を設け、去年と同じような形で地区本部にも皆さん集まっていたいてやるという形であれば、今回のこの予約の形は特段何も無駄が生じるということはないと思います。だから、あとは日にちを 15、16、17？あれ？合ってるんだっけ？

[鈴 木]役員は当日 10 時開催で、間に合う間に合わないもあるので。

[佐 藤]大会の前に最後の中執やっていなかったっけ？

[鈴 木]1 時間くらいやっている。9 時から 10 時は役割確認とか、そういったところもあるので。

[佐 藤]そうすると、函館とか長崎とか門司とか来れないから前泊ってことですよね？

[倉 本]そうです。なんで、感染者が増えればもちろん中央に来る人が少なくなるっていうのは、想定できることですし、大会やるやらないとかそういう問題じゃなくて、一応開催する方向でそこはちゃんとホテルも押さえるし、各地区本部も地区本部に集まると代議員が密になるんで、どっか会議室を借りるっていうのであればあらかじめそれを言っていて、そこを公示のときにここでやりますってやってもらえればそれでいいと思います。

[秋 山]でも委員長さ、今の状況からみてさ、コロナ減るような感じはしないでしょ？

[倉 本]そんなの読めないんで。

[秋 山]いや、大体これから見た感じでは、増えるしかないような感じ。

[倉 本]結局増えても、結局今まではちゃんと頭打ちしていますから。

[秋 山]まあそれは委員長が決めればいい。俺が決める権限ないから。ただ、俺としては、これからもっと増えるような気がするんです。

[倉 本]それは、意見としてありますんで、それはそこでちゃんと会場は会場でちゃんと集まる人数を少なくすればいいし。

[秋 山]だったら、近くなって、状況が良くなってからまた取り直してもいいような気

がしますけどね。

[倉 本] いや、それだとホテルがもう押さえられなくなっちゃうんで。

[秋 山] いや、他のところ取ってますかね？こんな状況で。

[鈴 木] まあ確かに、宿泊を必要とする時間でやるかっていう話も当然あって、WEB で午後だけっていうところもありますから。それだと宿泊はいらないよねっと。去年は、会場を押さえて WEB で来れる人は来てっていう形でやりましたが、その前の年は、完全 WEB で中央書記局だけで。

[秋 山] 言うのはいいよ。言いたいこと言っても、カッコいいこと言っても。ただ、やるんならちゃんとケツ持てってんだよ。

[鈴 木] もちろん。もちろん。おっしゃるとおり。

[秋 山] 言うばっかで、金は出さねえ、口は出すってんなら話になんねえ。

[鈴 木] おっしゃるとおり。

[秋 山] やってみて、結果を出してから言えがいいじゃねえか。出てねえのにギャーギャーギャー言っただけで、後になってなにもしねえ…（聞き取り不能）… そんなの後の祭りになったって何でも言えるじゃん、政治家と一緒にだよ。公約ばっかり言っただけでなにもしないの。だから組合員減っていくんじゃないかよ。

[鈴 木] またその話は別途あるとして。

[秋 山] 金だっただけでなんだったってそうだしさ。もうちょっと考えてやればいいじゃねえか頭いいんだからあなたたちはさ。バカの俺でもこんなけできたんだからさ。同じだよ。どこの組織でやるにしたって。俺はそう思うよ。

[鈴 木] ちょっと一旦クールダウンしますか。5分くらい。いいですか。秋山さんちょっとクールダウンしよ。

—休憩—

[鈴 木] 他の地区本部からも色々ご意見を伺いたいんですけど。

[新 里] 基本的なことで、ほんとに話を聞いていたのかって言われそうな質問なんですけど、日程は何日っていうのは決まっていなくていいんでしょうか。

[鈴 木] 日程は、9月に行うっていうことだけなので、過去は23日の週にやっていたときもありましたし、2期前から1週前の16日っていうふうに調整はしています。だから9月に大会は実施するということだけです。

[新 里] 見積りだと、3日（間）で押さえているけど、これが1日だけになる可能性もある？

[鈴 木] もちろん。だからそこも踏まえて、ご意見を伺いたい。今前段として、こちらが提示できているのは、去年の大会あとに仮押さえでこの予約はしています。もちろん、この日が得策じゃないという意見もあって然るべきです。ただ、書記局としては、現状、2週前の3連休でやるのがどうだっていうところが去年からの流れなので。というところです。

[新 里] わかりました。うちからの意見なんですけど、書記局提案では、集合形式で代議員のみ WEB 会議ということになってますけども、コロナの状況、東京さんからもありましたけど、地域によって感染者の増え具合というかですね、沖縄は断

トツで人口当たりワーストということで、ちょっと職場の目というかですね、他より厳しいところがあるので、役員についてもそこはフレキシブルに WEB というのも残してもらえないかなと思っています。以上です。

[河 野]先がわからない話ではあるので、大変難しい判断になるというのは承知しております。今まで我々第6派まで経験したというところでありますので。ただ、第7派も大きくなるのであろう、期間も長くなるのであろうというのは、素人ながらも予想はできるんじゃないかなと考えております。それでまあ、コロナありきで話を進めた方がいいというところなんですけど、どうでしょう、例えばなんですけど、ここで去年と同様のようなハイブリッドで実施するというようなところで、お決めになったらいかがでしょうか。

[仲 野]神戸地区本部仲野です。ハイブリッド開催であれば、感染対策も十分とれている状況下で開催するというふうになりますので、神戸地区本部としてはハイブリッド開催に賛成いたします。

[前 田]横浜も同様にコロナの状況が読めない中で、柔軟にその場の状況を踏まえたハイブリット開催が一番望ましいのではないかと考えます。

[武 田]函館です。うちとしては、集合でもハイブリットでも決まったことにはそのまま従うつもりではいるんですけど、何回か前かの中執で、僕がお願いしたことがあって、1日にするのか2日にするのかっていうところで、話し合う内容が盛りだくさんで1日で収まらないんだったら当然2日やりましょうって言ったんですけど、そこで書記局でどんな感じで作業を進めているのかというのをまずお聞きしたいんですけどいかがですか。

[鈴 木]書記局としては、ここに書いてあるように10時から16時で1日のスケジューリング。来賓が3名程度っていう想定で、質疑に関しては1時間ちょっとしか取れてないんです。その中で4時に終わる想定でスケジュールはできています。ただ、質疑が延びるっていう可能性もゼロではないので、もしそこを厚めにとということであればなんですけど、今のところ議案書自体も提示できていないので、正直そこに関しては変更もあり得る可能性もゼロじゃないです。あとは、函館の武田委員長が今期第1回の中執の中で前期ハイブリット、前々期WEBでやったときに質問が全然なかったというところで、質問少しはあった方がいいんじゃないのというところもありつつなんで、あとは書面で前期のように質疑応答は先に役員に配っておいて、もし何かあればそれで回答、共有っていうこともやれなくはないです。そうするとそこで生の意見はっていうのは出づらいのかもしれないですけど、それでもそっちで進めるかどうか、まあ生ものなので、きた場合は、どういう質疑が飛んでくるかわからないっていうのは想定できていないです。だからスケジューリングに関しては、1日で作ってはいますけどっていうところですね。

[武 田]了解です。ありがとうございます。

[鈴 木]他の地区本部さんいかがですか。あの一、まあいいんですけど、きちんと言っていたかかないと、こちらとしてもやはり判断がしかねるところもあるんで、

そこはちゃんとご意見は伺っておきたいんですけど。

[原 川]名古屋は最初から集合形式でハイブリットも可って形で。

[鈴 木]それは役員も含めて？

[原 川]役員は、書記局の提案どおり。

[鈴 木]場合によってはハイブリットも？

[原 川]状況下によってはハイブリットも。あくまで議題 1 の提案どおり名古屋は賛成です。

[鈴 木]大部屋をひと部屋金曜日、まあ今半日ですけど、そこを終日。もちろん前の小さい会議室 9 時から 1 時間借りているところも変更しつつ、デカイ会場を一番最初に中執をやる場所も踏まえて、9 時くらいからっていうところ。

[原 川]最初に聞いたかったんだけど、大会 10 時からやるん？

[鈴 木]今、スケジュールリングは、想定は 10 時から。

[原 川]いつも 1 時から。あ、でも 1 泊 2 日じゃないからか。

[倉 本]1 時からやっていたのは、1 泊 2 日だったんで、次の日に質疑をしてっていう形でやっていたと思うんですけど。そこは、ある程度、質疑を去年のように私の想定の中ですけど、1 日でやろうと思うと、やはりある程度質疑を作っておいて、その場で 20 分 30 分でも取っておいて、その場でもし質問があればっていうところで、ここの回答しているところでもうちょっと詳しく教えてくださいとか、そういう質問…（原川割込み）

[原 川]じゃあ、最後の中執は。

[倉 本]9 時から 10 時の間で打ち合わせをすればと思ってて。議長とかを早め呼んでいるんだったっけ？

[鈴 木]議長は呼んでいます。

[倉 本]プラス議長ですよ？

[鈴 木]議長は事前に打ち合わせ。

[原 川]議長は来てもらう形になる？

[鈴 木]去年は、両方ともハイブリッド。

[倉 本]そうそうそう。ハイブリッドだったんで。

[齋 藤]前の年は、私が確か中央に行って、30 分前に打ち合わせして。

[鈴 木]はい。進行要領渡して。

[倉 本]なんで、中央から提案させてもらった、このペーパーに書いてある内容は、代議員は WEB による参加も認め、役員は中央に集合って書いてあるんですけど、感染者がそんなにいないときにこれ作っているんで、今感染者が増えているんで、私としても今の状況を踏まえると、今後増えるかもしれないとか、皆さんの予想どおり動くかもしれないので、今後夏休みもあったりして、そのあとの 2 週間後くらいにこれをやるもので、読めないところはあるんですけど、役員も代議員も両方とも選択できるような形で開催はしていきたいと思っております。これが、ほんとにほんとにもう、緊急事態宣言が出るような事態になれば、またそこはまた状況が大きく変わりますので、その時はまたご相談させて

いただく形になるかと思うんですけど、時間をもっと縮小しないといけないんで質問自体は受け付けないと、例えば定期大会は2時間くらいで収めるとか、そういう感じにするとか、もうちょっとそういう開催の工夫の仕方はしないといけないのかなと思ってはいますが、今の状況を踏まえて判断できるとすれば、今そのような形で中央執行委員長としては考えております。

[佐 藤] 中央執行委員長がハイブリッドでやろうって言ってるんだから、ハイブリッドでいいんじゃないんですか？基本的には。今の時点では。あとは、さっき言ったとおり、俺ら執行委員もそうだし、代議員もそうだけど、その時の状況で東京来れるっていう人もいれば、地本でどうにかなんねえって人もいれば、地本すら行きたくねえって人もいるから。公示の仕方をちょっと考えなきゃいけないけど。自宅ってなってくるとね。

[鈴 木] その辺は、他の労組の話ですけど、大会会場だけにして、WEB 併用ってして、今までは地区本部だったので、各地区本部って列挙してましたけど、メインの会場だけ公示しておいて、WEB ハイブリットって表記でやっている労組さんもあるんで。別にそこは今までの列挙を変えるだけで問題はないのかなと。

[倉 本] どこがやっているんですか？

[鈴 木] 全財務さん。

[齋 藤] 要は主とする会場だけを明記して。

[鈴 木] あとは、WEB ハイブリットとして、どこから参加するかまではあえて。今までは、そこを全部地区本部で列挙してましたけど、そこは列挙しない。

[齋 藤] それで、前回、場所まで全部入れないといけないのかって話しをしてたんですね。

[鈴 木] そうです。

[武 田] 函館です。今決めるのってハイブリットにするしないっていうところと、日にちっていうところでいいんですかね？

[倉 本] そうです。16時に定期大会の方がある程度終われば、第1回の中執もやってしまおうかなと私自身思ってて、そうすれば1日で全部終わっちゃうんで、翌日の午前中に持ち越しちゃうと、また泊まりとか、WEB で参加している人がまた翌朝参加しないといけないとか、ちょっとまたそこで別途時間を取ってもらわないといけないっていうところがあって、一番時間を要するのは役決めとかですね、そういったところで時間を要したりするもので、もうそのあたりは、ある程度役員が定期大会のときに分かっている話なんで、そのあたり、あらかじめ今期の間に各地区本部に話を振って、どこの部分役割分担したいかっていうニーズを聞いて、1回のときに調整済みのものを提示するようにすれば、その日にゴネゴネすることもないのかなと思ったりもするんで。そういった形でできるだけ、執行委員会ももしその時間にやるのであれば、きゅっと短く開催できるように工夫しながらやっていこうかなと思っています。その点、御理解いただければと。

[鈴 木] みなさんの方はいかがですか？よろしいですかね？問題ないですか？じゃあ

日程の方は、ここに書かれている 9 月 16 日ということで 1 日ですね。

[武 田] 日程なんですけど、土曜日の方が集めやすいなっていうのがうちあって。16 じゃなくて、17 がいいなというのが函館の希望です。

[鈴 木] 日程のところは、ほか皆さんいかがですか？

[佐 藤] 1 日だったら土曜日の方がいいかも。定期大会自体がさっきいった 1 泊 2 日というか、午後始まり、次の日の午前中までだったら当然、金土とかの方がいいだろうけど、さっき委員長から話があったとおり、できるだけ 1 日で全部やっちゃいますよっていう大前提だったら、土曜日の方がやりやすいんじゃないかな。

[倉 本] そのあたりの日程が金曜日の方が、3 連休前なので、前泊する場合に、土曜日自分で宿を取ろうと思ったら結構宿が高いと思うんですよね。地方から来る人が。そういったところを考慮して、金曜日にしておいた方が、皆さん宿とかもリーズナブルに泊まれるしいいのかな自分で手配するときにとまって。飛行機で往復する人とかについてもですね、3 連休のときに飛行機で往復すると考えたときに非常に飛行機代高くなるんですよね。そうなったときに足が出たら、もちろん実費で払いますけど、そうなったら経費が高くなるわけですよね。それを考えたら、やはり経費の部分の考えると金曜日にやった方がいいかなあ、なんていうのは、書記長と前に話した話ですよね？

[鈴 木] そうです。

[佐 藤] 最近、中執もそうですけど、あんまり仕事休めねえとかで土曜日とかの方が結構多くなっているじゃないですか最近。そういう面で税関もだいぶスタイル変わったんかなあなんて。自分もそうだけど。土曜の方が融通きくかな。だって、ぱーとみて、そこそこそれなりの要職でしょ？三浦君なんて三浦君 1 人いなかったら船動かない。そういうのも考えたら、武田君から話があったとおり、土曜日の方がいいのかな。

[倉 本] わかりました。17 日だったら 1 日押さえますよね？

[鈴 木] 17 日は 9 時-5 時で押さえてはいますので、そのあとの会議も収まるレベルでは。33 万 3,330 円っていうのが使用料。17 日の土曜日という意見があったんですけど、他の地区本部さんいかがですか？

[一 同] 賛成。

[齋 藤] そういう意見、やっぱり必要だと思うんで。

[倉 本] わかりました。

[鈴 木] 東京さんは大丈夫ですか？

[堀 田] 金でも土でも、どちらでも大丈夫だと。私は大丈夫ですけど、全体的にもそこはちゃんと調整してきますので、そこは大丈夫です。

[倉 本] わかりました。じゃあ土曜日 1 日ってということで、先ほど申し上げたように部屋が 17 時までしか取っていないので、そこが 18 時までいけるか、その部分確認しておいてもらっていいですか？もう 1 時間延ばせるかどうか。多分後ろに入っていることはないと思うんで（鈴木書記長に対し）。

- [佐 藤]そうすれば、さっき秋山さんが言った最低限になったでしょ？とりあえず。
- [鈴 木]そのあとは、状況を見てということになります。現時点では 17 日終日というところで、部屋も 1 部屋だけ。宿泊に関しては、直近までどこまで待ってもらえるのかも含めて一応確認はしておきますが、ていうところで皆さんいかがですか。よろしいですか。
- [一 同]賛成。
- [鈴 木]ありがとうございます。それではそちらで調整します。一応 1 時間後ろ倒しができるかもこちらで確認しておきます。
- [前 田]すみません。ちょっとつまらない確認かもしれないですけど、日程短くするのもあり、コロナ禍ということもあり、来賓ってさっき 3 名想定っておっしゃっていたんですけど。
- [倉 本]だから、来賓ももちろんコロナの状況によって、来ていただけるだけないっていうのがあるので、そこもハイブリットですね。3 名をコロナが収まれば 3 名来てもらうような想定でシナリオは考えていますけども、もちろん去年のように悪い状況の中、3 名来てもらうなんてあり得ない話なんで、そこは 3 名来るんですか？ではなくて、良い状況であれば 3 名来るし、悪い状況であれば 0 名。そういう状況です。
- [前 田]はい。ありがとうございます。
- [倉 本]ですけど、今回開催するってということで、開催案内も出しますし、激励のメッセージも頂くという部分は、今までと変わらないといったところで。議員会館を回っていても、今回税関さん定期大会どうするの？って秘書さんとかも言っていますんで、そのあたりはまたメッセージよろしくお願いしますねって言ったら、わかりました、またメッセージ送りますねって言ってくれているんで。あと、行かなくていいの？うちの議員出そうか？って言ってくれているところもありますんで、今後そこも調整してやるといったことです。

(2) 第 63 期中央執行委員定数について

定数について、書記局提案のとおり、以下で承認された。なお、現在判明している予定者も確認を行った。副委員長をどこがするのか、兼任にするのかについては、メンバーを見て決めることとなったので、次回中執時にメンバーが決まっていればそこで再度話し合うこととした。

副委員長	3 名：
函館	1 名：(予定：北出)
東京	1 名：(予定：未定)
横浜	1 名：(予定：未定)
名古屋	1 名：(予定：原川)
大阪	1 名：(予定：未定) ※欠席
神戸	1 名：(予定：仲野)
門司	1 名：(予定：浦中)

長崎	1名：(予定：福本)
沖縄	1名：(予定：新里)
青年	1名：
女性	2名：
海事	1名：(予定：福田(大阪))
行二	1名：
会計監査	2名：〇〇(東京)・〇〇(横浜)
中央	3名：倉本(神戸)・齋藤(横浜)・村岡(門司)

計：22名

また、秋山中執から、以下の提案があった。

[秋 山] 来期の行(二)専門委員会は、東京以外でやってもらえないか。いつも東京で行っており、東京以外であれば行ってみたいという若い組合員がいる。少しでも興味を持ってもらうためにも。若い組合員からも、それくらいの楽しみが欲しい、じゃないと辞めるという声も出ている。

[倉 本] わかった。予算取りの関係もあるので、今期の書記長と来期の書記長で話をし、予算が確保できれば。あと、コロナの状況にもよる。

(3) 専従者役割ローテーションの確認

次期中央執行委員長については、大阪地区本部の永山さんで前回中執において承認されており、次期書記次長(沖縄)と、次々期の書記長(神戸)について、各地区本部から状況の報告が以下のとおりあった(発言ママ)。

[新 里] 来年、ローテーション上では、来年の9月からローテーションになっているんですが、結論から申し上げさせていただくと、まだ立候補していただける方が見つかっておりません。このことは、倉本委員長とも話は常々させていただいてですね、言い訳がましくなっちゃうんですけど、経緯を少し。何も働きかけてないと思われる、うちの役員等の気持ちもあって侵害なので少し話させていただきます。今期、門司さんから村岡書記次長を出していただいているんですけど、元々のローテーションでは、今期から沖縄が順番となっていたところを私の前任の執行委員長、翁長の方も同じように候補を声掛けしていたところ、やはり立候補していただく者がいなかったということで門司さんをお願いして順番を変えていただいた経緯があると伺っています。その流れで、翁長の方からは、ちょうど沖縄、書記次長適齢っていう年代があるのか人によって違うと思うんですが、役付きなりたてというか、じゃあ今回声掛け広く30代という形で声掛けしていったんですけど、それくらいの年代で、ちょうど役付きになる職員がそれまでは4、5名しかいないような年代ばかりだったんですけど、クルーズ船で旅客が増大で職員が増えた年代がその年齢に入ってくるっていう見込みもありましたので、それに期待して順番を変えてもらって、私の

方が書記次長選定を引き継いだというところがありました。それは私も常々聞いていましたので、私が1年目の委員長のときに定期大会の初めで、書記次長選定1回引き延ばしてもらっている状況であるんで、他の地区本部さんに迷惑をかけている状況はこれ以上避けたいのということをや役員に声掛けして、教宣でも内容について中央の方でも見ていただいて、教宣をまいて、立候補者を探しやすい環境に整えて探していきたいということですね、取り組みを進めてきたんですけども、結果、見つかっていないってことですね。今の状況は、ほとんど翁長のときから候補が下の一番若い年代が2年くらい増えただけということなんで、上の世代というのがまた同じような候補の人たちなので、あまりしつこくやると、中にはこんなけ声掛けされてめんどくさそうだったら、組合辞めればそういう誘いもなくなるとかって考えて、冗談か本気かわからないですけど、口に出すような状況になってきているところでしたので、あとは、コロナもあったので膝を突き合わせて説得するということも中々控えられてしまうというところがあって、それで5月6月に倉本委員長の方には、まあうちも役員の方には、ここまでやって見つからなかったんで、中央の方にギブアップということと言おうねってことで確認をして、倉本委員長の方にちょっと厳しいですと話をさせていただきました。倉本委員長の方からは、もう少し頑張ってくれと、過去に中央執行委員長を務められた新垣、今は空港支署長ですね。がいらっしゃって、そちらの方にもアドバイスを聞きに行くのもいいんじゃないかと。そういうこともありまして、相談をさせていただいたんですけども、6月でしたので人事異動も近いということで、もしかしたら人事異動によって、環境が変わって引き受けてもらえるような方が出てくるかもしれないという話がありましたので、ちょっと今はそこに期待して引き続き説得する者を確認中というところですね。一応目を付けている者はいるんですけど、人事異動直後ということもあるので声掛けのタイミングも異動直後新しい仕事を覚えているような者に、来年の異動で内地に行くというような話を切り出すのは中々一蹴されそうなところがあるので、どういう風にアプローチをしようかというところは、役員と相談しながら考えているところでありまして。今のところはそういう状況です。以上です。

[鈴木] はい、ありがとうございます。経緯についてはご説明をいただきありがとうございます。現状見つかっていないというところも踏まえてですけども、今後また動いていただくというところもある中で、まだもし言い足りないことがあればですけど、大丈夫ですかね？この後探す前段でご説明頂いたというところですね。よろしいですね？新里委員長。

[新里] はい。

[鈴木] 見つかる可能性は難しいというところでしょうか。

[新里] 可能性は高くはないと思っているんですけど、全然リアクション等をまだ見えない状況なので、ちょっとやってみて、あまりこれにも時間かけすぎるとほんとにうちがダメってなったときの選定が悪影響があるんで、そこは気にしつ

つ、先ほど申し上げたように、異動して新しい仕事を覚えているようなところというのもあって、ちょっとそこを見極めて進めさせていただこうと考えております。

[鈴木] という報告を委員長、受けましたが。

[倉本] 進展の内容なんで。

[鈴木] そのままということでよろしいですね。

[倉本] なんか言いたいことあるんだったら言ってください。

[鈴木] このまま書記次長を現状のまま、ほんとに維持するかどうかという議論も他の労組さんも専従者、予算上で減らしたりとか、なり手もないからっていう検討もされているところもあるので、そういう話も踏まえて…（倉本割込み）

[倉本] 今日やるんですか？

[鈴木] いや、そのままでよくて、でも先送りにしていい話じゃないでしょ。

[倉本] じゃあ今日そういう風に決めるんですね。

[鈴木] 決めるんですね？いや、そういうところも踏まえて、議論しないとダメだろ？って話。

[倉本] 決めつけですね。分かりました。

[鈴木] なに決めつけって。

[倉本] ダメだろって。

[鈴木] そういう話もしたらいいんじゃないの？って。

[倉本] いやいや疑問形じゃなかった。だろ。でしょ。

[鈴木] じゃあ考えがあるなら言えばいいじゃん。

[倉本] あ、そう。

[鈴木] あ、そう。じゃなくて。

[倉本] 分かりました。引き続き沖縄の方と連絡は取らせていただきますんで。また、引き続き委員長よろしく願いいたします。で、一応この話は次の書記次長の長崎の方、福本さんにも話はしているんで、この場で言うのもあれなんですけど、最悪また沖縄がっていう話であれば長崎さんにやっていただくのかなっていうのも考えつつ、話とかはさせていただいておりますので、その点ご承知おきいただければと思います。

[鈴木] 皆さんの方からはご意見はないですか？

[原川] ちなみに長崎さんって。

[倉本] 誰とかそういうのはいないです。まだ、頭出しをしているだけなんで。ですけども、あと1年ちょっとしか村岡の任期もないわけなんで、そんな中、次の人事異動を逃したら取り返しがつかなくなるんで。次の人事異動ってなると、今年12月までにはある程度決着つけて、当局に言っておかないと、支署にいる人間を本関地区の休職する立場の職場に異動してもらおうとか、色々とネゴシとかないといけないんで。そういったところも含めると、私としても今年の12月までがリミットだと思っています。

[原川] 難しいですな。そうしてみると、書記次長を沖縄がここ何年も出せてない。

[倉 本]それはわかっています。

[原 川]てなると、人数的にも厳しいのかなと思うと、逆に書記長だったら出せるのかなと思っただけです。

[倉 本]私の後の永山さんについてもですね、やはりすぐ決まったわけではないので。どこの地区本部も出してくださいって言った時に中々今の沖縄さんの状況のような形でですね、いや、ちょっと待ってくださいというような状況の中、やってもらっているというのが実態ですので、そこはどうしても時間がかかってしまうのはしょうがないのかなと思うんですけど。またそこは密に連絡を取りながら、沖縄、長崎と書記次長の部分についてはですね、お話をしていこうかなと思っているんですけども。逆にローテーションに入っていないけれどもうちから出せるよなんて地区本部があるのであれば、逆に提案していただければと思いますんで引き続き、このローテーションに入っていないけれどもうち若い子が書記次長やりたいって人がいるんだなんて地区本部があるのであれば逆に中央のほうに提案をしてください。よろしくお願いいたします。

[鈴木]皆さんの方からは特にご意見はなしで大丈夫ですか？よろしいですか？

[佐 藤]一個いいですか？さっき、鈴木書記長の方から、今日の議題には挙がってないですけど、書記次長他の地本結構少なくしてる。できれば、今の中央の専従ないし、次期の専従で書記次長がいなくても2人で回せるのか回せなのかっていうのをしっかりご判断いただいてから中執なりにかけてもらわないと、中央として全然2人でやっていけますよって言うんだったら、じゃあ予算の関係もあるだろうから無くすっていうのも有りだろうけど、ちょっと正直なところ中央の専従の活動の報告とかはもらってますけど、実際どういう運営をしているのかっていうのは、経験者はわかっているのかもしれないけど、中央専従を経験していない人間はわかんない話なんで。その部分はもうちょっと専従3人だけでしっかり詰めてから拡大中執なり、中執に投げてもらいたいな。以上です。

[倉 本]それでよろしいですか（鈴木書記長に対して）。

[鈴木]うん。ただ、そういうところがあるところもあって、もちろん今言うべきだったかどうかは別として、そういう見解もあるから、そこも一つ視野に入れとくべきじゃないの？話聞いてくれないでしょ？あなたそういうの。

[佐 藤]ですんで、もうちょっと中央専従で。ほら、逆にもう1人欲しいとかになる可能性もあるわけですね。

[鈴木]もちろんそういう話もあると思います。

[佐 藤]なんでその辺踏まえて、いい時期に話をしてもらおうのかなって感じですかね。こちら非専従の人間からすると。

[倉 本]まあ、今書記さんを雇ってですね、週2回。雑務の方はやってもらったりしてるんで、そのあたりである程度事務がお願いできるのであればそういった検討も出来るかもしれないですけども。今現状の部分でですね、すぐ減らす話っていうのは、おそらくできないのかなと。それぞれ上部団体とかにも何の会議に出るとかっていう形で役職はめているんで。そういったところを外して、当

てはめのし直しもやったうえで減らさないと、やみくもにはめて上部団体から税関労組どういことなん人減らしてみたいな感じになっちゃうとあれなんです。そういったところの調整もしたうえで丁寧に私はやらないといけないと思っていますんで。

[鈴木] 今、せっかく書記さんの話が出たんで、改めて言わせてもらいますけど、これちょっと書記局の不手際なんで、申し訳ないのもありつつなんですけど、本来書記さんを雇うときって、確か事前に承認をいただいていたはずなんですけど。

[倉本] 承認いただいていますよ？

[鈴木] 今期、四役もそうだし、中執でも確か事後承認、事後で報告しただけだったと思っているんですけど。

[佐藤] いや、だから俺早く取ってあげれば？って。

[鈴木] いや、おっしゃっていただいたのはそうなんですけど、雇っていいですかって前期のときも。

[佐藤] あれ、言ってなかったっけ？

[鈴木] 言ってないです。議事録も残ってなくて。それに関しては、前期の時にアルバイト雇うって話は奥平と私が…（倉本割込み）

[倉本] だからやっているでしょ？

[鈴木] 違う違う。それはその時の話であって。今期雇うって話は改めて説明できてなかったんで、そこについては。ねえ委員長。

[倉本] ああ、はいはい。申し訳なかったってことですね。はい。

[鈴木] いやいや、私に謝られてもしようがないですよ。皆さんに。ちゃんと説明するんじゃないですか。

[倉本] え、なにをですか？

[太田] 説明ちゃんとしてくださいよ。

[鈴木] ほら。

[倉本] ああ、分かりました。

[太田] お願いします。

[倉本] 申し訳ないです。今期ですね、書記さんを雇った経緯っていうのが実は中央の方、当初3人でやる予定だったんですけども、10月末くらいからですね書記長の方が休暇の方を取得して職場の方に出てこなくなったということがあって、私と書記次長2人だけで事務を回していたところがあって、そういったところで色々ご相談させていただいた地区本部さん、ちょっと一部地区本部さんにはなってしまったんですが、書記さんを事務が回らないんであれば、書記さんを週に1日2日なり、3時間ずつでもちょっと雇うんだったら雇った方がいいんじゃないですかとご提案があって、ちょっと皆さんの方に事前に承認を取るべきではあったんですけど、そのあたり説明をできることなく、契約書はきちんと交わしているんですが、我々が手が回らなかった部分、毎日、村岡と私9時10時まで残って仕事をした部分があったので、ねえ村岡。

[村岡] そうですね。

[倉 本] っていうところがあって、やむなくそういう形でやらせていただいたところありがとうございました。そのあたり、事前承認取れなかった部分については、今更ながら申し訳なかったと思っております。もともと、書記さんについては、予算を立てておりましたので、その予算の中で納まる中で、仕事を今もしてもらっております。以上です。

[佐 藤] ちなみにいつから？

[鈴木] 年明け1月の10日前くらい？だから僕が戻ってきたあとですよ。結果としてね。だからその辺の判断も含めてっていうところで、規約からみれば書記局の運営の中で、承認を得てってなっているので、そこに関してだけ言えば、すみません規約違反ですってことになるんですけど。その認識は委員長されているんですか？私言いましたよね？ちゃんとこれ中執にかけないんですかって。戻ってきたばかりのときに。

[倉 本] 戻ってばかりのときに言われましたか？

[鈴木] 12月のその1月に12月の末に面談やって雇うって言った時に、雇うことになりましたからって私に言った時に、中執かけなくていいですか？って話になりましたよね。私言いましたよ。まあ言った言わないは別ですけど、そのあと本当は私の方で進められれば良かったんですけどっていうところも踏まえて、そこはちゃんと説明した方がいいんじゃないですか？

[倉 本] ん？どこを説明するん？

[鈴木] いや、だからそうだったっていう話を説明しないとダメでしょ？

[倉 本] ん？

[鈴木] だから1月でしょ？契約したのは。

[太 田] 全然なにも知らないんだからこっちは。

[秋 山] 規約だ規約だって言っている割には規約どおりにやってねえじゃねえかよ。なんなんだよさっきから決まりだ…（太田割込み）

[太 田] 説明くらいしてくださいよ。ちゃんと。

[倉 本] まあ事後になってしまったのは申し訳ないと思っています。

[秋 山] 事後で取っていいの？約束事で決まっているのをさっきから規約だ規約だって言っている割にはさ、規約どおりにやってない。そんなの事後でいいの？だったら規約意味ないじゃん。みんな事後報告でいい訳でしょ？

[倉 本] いえいえ、全部事後報告でいいとは私は言ってないです。

[秋 山] ふーん、さっきから聞いていれば、規約だ規約で決まりがどうのこうのって言って割には。

[倉 本] 私は規約でとは言っていないです。

[秋 山] 矛盾してるね。あまりにも。

[佐 藤] まあ、けど大変なんですよ？

[秋 山] 大変だけど、規約は規約だってさっきから言ってる。

[鈴木] まあ、私が戻ってきてからの話なので、実際雇うっていうのは。

[佐 藤] だって、ほらずっと書記さん含めて4人体制でやってた中で、大山さんがいな

くなって、あれしてたんですよ。

[鈴木] 正規の書記はそこまでは、予算もひっ迫するからっていうところで日雇いって
いう話になって、一回こっきりでちゃんと雇うってところで前期は説明させて
いただいたのが、今期はできずってというのが今の話。

[佐藤] 当然ほら、今秋山さんが言った通り、事前に承認取らなかったっていうところ
はあるけれど、元々予算の計上はしているんだし。

[秋山] 予算の計上してたからって、事前の取んなきゃいけないの取んないのはダメで
しょう。違うの？違うの？

[佐藤] そこを每期每期とるの？

[鈴木] 一人の書記さんを延長して雇うのであれば、僕はそういう風にやっていました
けど、一回契約は前の人は終わっているから。

[佐藤] だから、秋山さんそこなんですよ。うちの組合の規約って、どうにでも取れる
ようになっているんですよ。

[鈴木] まあ、でも雇う時は承認なんですよ。

[秋山] だから、必ず 100% そうしないといけないじゃないんだ。

[佐藤] だから、説明が付けばなんでもいいですよ。うちの規約っていうのは。

[鈴木] いやいや、雇う時は、やっぱり承認なんですよ。前の契約が終わって、雇うわ
けですから、そこはちゃんと承認貰わないといけなかった。

[佐藤] だから、そのときの委員長、書記長なり、俺ら中央執行委員の判断で決まる。

[秋山] ボーダー部分はどこなんだよ。

[佐藤] そのボーダーも変わるんすよ。

[秋山] そんなんでいいの。

[佐藤] 今更辞めさせろって、太田さん今更辞めさせろって言う？

[太田] 今更辞めさせろとは言わないですけど、承認とるの当たり前じゃないです
か？知らない人が書記になっているってことでしょ？こっちからすれば。説明
事前にいただくのが普通だと思いますけど。

[倉本] ああ、なんでその説明ができなかった部分について申し訳ございませんでした
と言ったんですが。

[太田] 次からそういう風に事前に必要なことをきちんとされてくださいね。

[倉本] ああ、わかりました。

[太田] 組織としてどうかと思いますから。

[秋山] ボーダーどうなっているんだよボーダー。

[佐藤] だからそのときの解釈で違うんですよ。

[鈴木] 太田さん、それで OK？私もすみませんでしたって謝りますけど。

[太田] はい。

[鈴木] 秋山さんも。

[秋山] 俺はもういいよ。だってこう言われたらどう言ようが言いようがねえじゃん。
だって俺直接関わってないし。俺はただのあれだからね。強くは言えないけど。

[村岡] 一言だけ言わせてもらえれば、当時は本当に残っていて、承認を得てからやつ

ていたら遅いくらいの緊急に大変だったんですよね。通常であれば承認と取ってっていうのは当然のやり方なのかもしれませんが、それをやってたら遅くなってましたし…

[秋 山] 投げるくらいはできたでしょ？ こういうふうにしたいですって投げるくらいはできたでしょ？ そんなこと言うんだったら、だったら事前に言うべきだろ、緊急だからこういう風にやりますよって。それすらやってないでなんでそんなこと言えるんだよ。お前言ってることおかしいぞ。だったら投げろよ。緊急でこういう風になってますからこういう風にしますって。だからお前言っていることおかしいぞ。緊急なら緊急ってちゃんと言えよ。なに言ってんだよ。俺だって一応組織やってたんだからそれくらいのことわかるよ。俺は全部投げてたよ。みんなに。一人で決めないで。言うべきことは言う、報告することは報告する。俺もトップをやった人間だからわかるよそんなこと。人間関係色んなことあったから。それをやることやってないでギャーギャーギャーギャー言うなお前。やることやってから言え。

[村 岡] じゃあ、次進めましょ。失礼しました。

[秋 山] 忙しいのはわかるよ。君がどんなけ頑張ってきたか。

[村 岡] もう大丈夫です。はい、次いきましょう。

[鈴 木] はい。すみません、こちらの話で。一応そういう経緯がありましたので、ここでご説明、書記さんの話が出たのでご説明をさせていただきました。皆さん完全に事後で承認をいただいている話なんですけど、一応規約読み返すと、そこは事前に雇う前に雇っていいですかって承認を本来するべきところだったので。すみません、わたしの方も 10 月から 11 月一杯さつき委員長が言ったようにお休みというか…（倉本割込み）

[倉 本] お休みですね。年休で消化してたんで。

[鈴 木] 私が休んだ理由とか説明されたんですか？

[倉 本] なにも説明してないですよ。言うなって言ったから。

[鈴 木] 言うな？ 言ったんですかって聞いただけですよ？ はあ？

[倉 本] だから言ってないです。

[鈴 木] はあそう、じゃあなんで僕が休んだかって知らないんですね。皆さん。

[太 田] なんにも知りませんよ。

[鈴 木] すみません、私あの 10 月の末にちょっとあの交代当初のバタバタが色々あってですね、お恥ずかしながら私の方で精神科行ったらですね、適応障害ってことで 1 か月ほど休むようにという診断書ももらってですね、それでお休みをいただいたんです。で、その辺の理由については、あーだこーだ言うつもりはないんですけど、その中で 2 人でやられて忙しかったというのがあったのかもしれないんですけど、私戻ってきたのは 12 月の頭ですから、そこから 1 か月後に書記さん雇われているんで、まあその辺 2 人がどれだけ苦勞したのかは、私はわからないんですけど、一応そういう状況をご迷惑をかけてしまったっていうのは事実ありますので、それは申し訳なかったとしか私の方からは言えません。す

みません。私いないときに多分進められたんだと思うんですけど、だた、私戻ってきてからの話なので、私の方から説明させていただきました。よろしいですかね？皆さんの方からは。いいですか。すみません。こちらの内々の話で申し訳ないんですけど、はい。次は？

[倉 本]書記長じゃないですか？

[鈴 木]書記長の方は神戸ですね。

[仲 野]神戸地区本部仲野です。65 期の書記長についてなんですが、現在結果から言いますと、決まっております。現状としまして、これまでの地区本部の書記長経験者、そちらの方に話を持っていこうと思っているんですが、私にまだ説得力、言葉による説明力がないため、はっきりとはまだ言い切っておりません。元書記長については、今年の6月ですね、人事異動までは一緒の職場でして、委員長私1年目ということで、過去の書記長のアドバイスをいただいたりですね、その辺でちょっと組合の熱を戻してもらってというところで、今そういう状況でございます。以上です。

[鈴 木]はい、ありがとうございます。とはいえ、あつという間に次に。

[仲 野]すみません。今鈴木書記長が言われたとおり、時間がないのは重々分かっておりますので、その辺私もちゃんと考えてですね、書記長の方、65期早々に決めて、また中執の方に御報告できればと思っている次第です。

[鈴 木]はい、では神戸さんよろしくお願いいたします。えっと、皆さんのほうはよろしいですかね？やっぱり、どこも地本もそうですけど、中々人選は難しいんだなあというところも。こういう風に前もって分かっているながらも、選出できていないのが現実なのかなあというところは受けるんですけど。

(4) 各地区本部情勢報告

ア 函館

- ・定期大会 10/1（土）函館駅前のホテルを見積もり中。中央から誰か来てもらえれば。

イ 東京

- ・定期大会 10/7（金）縮小しての開催。
- ・基礎科 40 人中 25 人、普通科 50 人中 48 人が加入。
- ・7月の人事異動の状況を分析しており、組合員の新規統括への昇進、上席への昇進が昔のように9割を超えることなく割合が下がってきている。管理職についても組合員が大体50%だったり厳しいところは当局にも強く言っていく予定。

ウ 横浜

- ・定期大会 9/22（木）午後開催。
- ・6/9（木）に、税関長交渉を実施。トピックスとしては、監視当直部門に女性職員を配置されているが、女性職員の当局は考えていないとの回答があった。
- ・6/13（月）に、令和4年度新規採用職員普通科に対して説明会を実施。過去に複数名で

新職の勧誘をすると威圧的に感じるとの声があったので、委員長 1 名で行っている。職場配属後に、研修アンケートと記念品を送付している。現在、22 名中 16 名アンケートが返ってきている。

- ・全大蔵の関東会議が 3 年ぶりに開催された。6/30 付の財務職組の解散の話が話題になっていた。
- ・7/8（金）に、人事院東北事務局長交渉に出席した。特殊勤務手当の要求で横浜は金地金に加えて知財も入れている。犯則調査としてはやっていることは同じため。東北事務局長からの回答は、地方ではなく本局に言って欲しいと。もちろん東北事務局からも本局に言うが、当局側も当局側として言ってもらわないといけないと。人事院本院に直接言える機会があるのであればそっちでやってほしいというニュアンスがここ 3 年ある。中央の方で本院に働きかけてほしい。

エ 名古屋

- ・定期大会 10/8（土）か 10/15（土）午後に開催。
- ・6/8（水）に、税関長交渉を実施。交渉後のフリートークで、税関長から逆質問があり、今後、女性活躍登用の指針の中から、女性を今いないところや少ないところにどんどん女性を配置することになるかもしれないと。それにあたって、組織としてアンケートをするので、組合員に対してそのアンケートをするように働きかけて欲しいと言われた。その話は承知して、女性組合員が希望しないところには行かさないでくださいと伝えた。
- ・OB の方から中央の新聞が 3-4 年届かないとの意見があった。
[村岡]私が着任したときに OB の方に送っている履歴があったが、鈴木書記長に確認してそこは送らなくていいという判断で今は送っていない。
⇒中央で検討することとした。
- ・6/29（水）に、令和 4 年度新規採用職員普通科に対して手帳と研修所のアンケートを送付した。一人から手帳の御礼があった。
- ・7/4（月）に、国公連合中部人事院中部事務局長に出席した。個別要求で金地金の犯則取締手当の要求をし、要望は伝えるとの回答であった。そのあと、事務局長室にて、自家用車の通勤手当が安いという話がでた。
- ・名古屋管内に 3 か所大型エックス線検査装置場があるが、清水と名古屋と四日市にある。清水と四日市は駐車場がなく要求したところ、建ててくれそうな雰囲気。予算が付きそうになった。ただ、清水は問題ないが、四日市の方が三重県の本材を使って公共の施設は建てなさいという条例があって、そうすると数千万円かかるということで当局が頭を悩ませている。難しいようであれば総 2 を通じて組合も動くので逐次情報を教えてくださいとなっている。

オ 大阪（欠席）

カ 神戸

- ・定期大会 10/1（土）場所は東急レイホテル。中央に参列を依頼予定。
- ・6/9（木）に、税関長交渉を実施。例年を超える発言はなかった。
- ・新職の加入懇懇はコロナの感染拡大で集まっての実施はできていない。研修アンケートについては配布済み。
- ・7月の人事異動アンケートも配布予定。
- ・今、高卒の研修が柏で行われているが、神戸の組合員の教育官から担当の班（神戸と横浜班）で声掛けの一環としてBBQをする予定。横浜地本と調整予定。加入懇懇はしないが、組合の意義を伝える予定。8月中旬予定。

キ 門司

- ・定期大会 10月頭にハイブリットで開催。
- ・6/9（木）に、税関長交渉を実施。特筆事項なし。
- ・新職の加入懇懇は、大卒は本関での研修の際に昼食時にする予定であったが、研修からNGが出たので研修最終日に行った。現在のところ加入者なし。
- ・人事異動期のアンケートを6月中に配布した。現在、回収中。
- ・夏休みのレクリエーションで、管内にある水族館に現地集合現地解散で入場券や昼食の補助を行う予定。

ク 長崎

- ・定期大会 10/1（土）か10/8（土）
- ・6/9（木）に、税関長交渉を実施。特筆事項なし。
- ・6月下旬に加入懇懇をしたがうまくいってない。7月に職場の組合員に加入懇懇を依頼する予定。再任用も多くなってきたのでアクションをかけていく予定。

ケ 沖縄

- ・定期大会 例年どおりの9月下旬予定で縮小開催。
- ・令和4年度大卒は、本関での研修の昼休みを利用して加入懇懇を行い9人中7人の加入。
- ・令和3年度の大卒も1名未加入者がおり、6月に前書記長の方から声かけをし、令和3年度生は高卒大卒共に全員加入となった。

（5）その他

ア 青年関係

- ・第2回考査管理室長会見について、呉屋青年委員長から報告があった。例年を超える回答はなかったが、フリートークにおいて、考査管理室長から個人の意見として移転料の自動車運搬費用の要求の仕方について考えを聞くことができた（詳細は、地本に共有したフリートーク履歴参照）。
- ・青年総会の代表者定数について、村岡書記次長から提案があったが、コロナ感染拡大前に青年総会を集合で行うこと前提で青年委員会において決定したものであった。本中央

執行委員会において、定期大会はハイブリットとなったことから、青年総会もハイブリットで開催することとし、ハイブリットとした場合の代表者定数については、検討していなかったため、再度青年委員会で検討し、改めて中央執行委員会で提案し、承認をもらうこととした。

- ・青年総会後のレセプションは、今回のコロナ感染拡大もあり、定期大会でも行わないことから同様に行わないこととした。

イ 出向者及び併任者に係る組合員身分及び組合費について

横浜地区本部より、配布資料「出向者及び併任者に係る組合員身分及び組合費について（確認）」に係る確認が提案され、今後、各地区本部統一で提案どおりに運用していくことが改めて確認された。

ウ 加入しようようの為の漫画に係る著作権費用について

倉本委員長より、加入しようようの為の漫画に係る著作権費用について提案があった。以下、質疑（発言ママ）。

[倉 本] 加入懇愿のイラストを他の労組さんで使っていて、税関さんもどうですかっていうことで、お話いただいたところがあってですね。説明資料は、作成しているところではあるんですけども、やはりその場で中々加入しない状況に最近なっている中、一旦持って帰りますっていう方が結構増えているというのも聞いていますので、一旦持って帰るのであれば、小難しい資料ばかりではなく、イラストで組合員が参加することが大事なんだよということが端的には書いてる漫画にはなるんですけど、そういうイラストを使って、新人加入懇愿の一つのツールとしてこういったものも使ってはどうかということを提案させていただくなか、青年委員会の方でもこれを見ていただいたところ、青年委員会では好評でしたという話よね？

[村 岡]（頷く）

[倉 本] ちょっと色々聞かれている地区本部については、個別に話を持っていくと、一つのツールとして使うかどうかは地区本部の判断なんで、こういったツール一つでもあればいいんじゃないかっていうことで、このイラストを作るにあたって、やはりお金がかかるもので、そのあたり色々交渉させていただいているなかですね、これセミプロが作ったやつなんでかなり本格的な漫画・イラストになっております。著作権は、うちに帰属して有限ではなく無制限でずっと著作権をもていられます。費用的にこのイラストをですね、中身をセリフとか色々税関に即した形にセリフを変えていかないといけないんですけども、金額として24万円かかるといったところで、当初60万円って言われたんですけど、非加入者全員に対して加入懇愿した場合、60万かかるんですけども、我々これを使う場合っていうのは新人加入懇愿、新人に対して何も組合が分かっていない、理解できていないって人に対して組合っていうのはこういうものなんだよっ

ていう触りの部分を説明したものになりますので、利用目的も限定した形にして、版權・原本については中央で管理して、地本から要請があればその部数分擦ってお渡しするといった条件を付けることによって、60 万を 24 万まで下げることができました。一応、この費用についてはですね、今期組織強化費でしたよね？

[鈴木] そうですね。ハマるとすれば。

[倉本] 組織強化の一環として、組織強化費の方から 24 万円を支出したいと考えているんですけど、皆さんの了承を得られれば今期の活動費として使用したいと思います。皆さんいかがでしょうか？契約書の方出して？

[村岡] (画面に契約書を表示)

[原川] この 24 万っていうのは一回こっきりの話？

[倉本] 一回こっきりです。なので、毎年 24 万円発生するんじゃなくて、今回 24 万円払っておけば、版權は永遠ですから。

[原川] 刷るのも？新規採用に対して使うのであれば刷り放題？

[倉本] はい。

[原川] 刷ったやつは回収しなくていい？

[倉本] 回収しなくていいです。もちろん版權は日本税関労組として契約を交わしますので。イラストを作成してくれるところと調整して、そういった甲乙で契約書を交わしますので、そういったところ、ホームページに載せるとか、できるだけ多くの目に触れちゃうと、我々税関労組のホームページの利用料と一緒に、分母が広がっちゃうんで。それを我々加入圏で毎年 200 人 300 人くらい採用がいるんで、そういった方を対象にやっていきたいんですっていう話をしっかりした上で、こういった契約書の方を作成しておりますので、そういったところの中で利用していただければと思っております。

[原川] 若者の食いつきがいいってことは新職加入に役立ちそうな気がするんでいいと思います。

[齋藤] 文字が羅列されているのを見ていると読むの嫌になってくるから、逆に視覚に訴えて内容で訴えて一石二鳥というか、非常にいいんじゃないかと私なんかはぱっと思ったんだけど。インパクトが第一だし。

[太田] この漫画を見てどのくらいの人が入ってくれるという風なものはあるんですか？

[倉本] そういった想定はないです。もちろん。そういった想定をしたうえで、こういったものは作成できないんで。もちろん一人でも多く加入してほしいっていうところのなかで、100 人絶対取りますっていうそういう見込みなんて取れるものがあるんであれば逆に太田さん提示してもらえればと思うんですけど。そういったものは無いと思うんですよ。

[太田] 提示してって。まずあの、この漫画を見たのが初めてです。なんとも言いませんが。それ、想定がそういう加入の計画ですか想定がないまま 24 万円も払うというのは、どうしてそんなに踏み切れるんでしょうかって話ですけ

ど。

[鈴木] 現状、だからあれだよな？ さっき、加入懇懇の新職のところの説明にもあったとおりに、一応できているところというところがあって、既に東京さんはもうほぼほぼ新職に関しては入れているところもありますよね？

[太田] そうですね。はい。

[鈴木] だから、今からっていうところもあるし、なくても出来ているっていう解釈が強い？

[太田] まあそうですね。今までもなくても入れてましたし、原因がよくわからないですからね。漫画が今まで無くてもやれていたのをここ最近コロナで色々な対面とかができなくなったりしていたのが原因なのかなと思っていたので。

[倉本] はい。そういったところもあるので、先もコロナが今増えてきているので、ちょっと集団で集めて説明会も出来ていないといった地区本部もあったので、それであればそういったところの中で資料の一つとして紛れ込ませて、こういったイラストを入れて説明するのも一つの手かなということで、色々試してみるということで、今回提案させていただいたところですよ。

[太田] 予算も少ないのにですね？

[倉本] ああ、そうです。

[鈴木] 確かに色々試してみるといった方法の中で、24 万円が高いか安いかって言われれば、決して安くはないとは私も思います。

[佐藤] 加入懇懇うまくいっていないところを基準に考えていただけると非常に助かります。そんな中で、何年か前から中執とかで統一して若い人たちに分かりやすい資料、なんとか中央の方で作ってもらえませんか？ 各地本でやるには限界があるんで、限界があるんでって言うってもお前たちがやんねえんだろって中央から言われればそれまでなんですけど、そういう面では、先ほどうちの齋藤も言ったとおり、分かりやすいものがあるっていうのは、地本としては非常に助かるかなと。特に横浜みたいに委員長が個別に説明してくれてもこえーだなんだって、言われるくらいだったら一つのツールとして、こういうの出してもらえっていうのは、横浜としてって俺が言っているのかわかんないけど、横浜としては非常に助かるしありがたいなと。逆に横浜さんだけそれを使えばいいじゃんって言うんだったらうちで 24 万出すよ。うん。正直なところ。出す出す。申し訳ないけど無理なんだ。加入懇懇、どんなけしても。

[太田] ○○（聞き取れず）っていうのは、非常によくわかってはいたんですけど、前にですね、税関労組はパンフレット作っていたんですよ。

[佐藤] FENCE でしょ？

[太田] ええ。

[佐藤] FENCE もうち毎年配ってるんだよね。むかーしの FENCE を。未だに。カラーコピー取って。

[太田] そうだったんですね。

[佐藤] そうそうそうそう。だからなんとか横浜としてはお願いしたいなと思います。

恥ずかしい話だけだね。

[太 田]ありがとうございます。

[浅 野]私の個人的な意見ではありますが、やってみるっていう方向性には賛成です。色々やり方はあると思うんですけど、やってみてダメだったら次の方法を考えればいいのかなんていうのは思います。ただ一つ確認なんですけど、この契約書って誰が作ったんですか？

[倉 本]この契約書は、セミプロのアニメーションの会社の方です。

[浅 野]なんとなく、私も資格を持っていないんで、100%っていう訳ではないんですけど、なんとなく穴がありそうな気がしなくはなくてですね。一度、弁護士とかに許諾書の内容を見てもらった方がいいのかなという気がしなくはないですが。

[倉 本]わかりました。

[秋 山]昔、カスタム君もそうだったじゃん。カスタム君の版權のあれで。版權がフジテレビのさんまのあれになってて、揉めて訳の分かんないやせ細ったカスタム君になったじゃん。あれも結局版權の問題でカスタム君が使えなくなったじゃん。

[浅 野]版權の問題もそうですし。例えば第7条損害賠償、請求することができる。一括して払う。なんか、いきなりもう払うことを前提にしているような条文だったりだとか、普通の契約書であれば第一管轄裁判所東京地裁に定めるとか、そういう決まりが一切まるつきり省かれているような契約書なので、この契約書だとなにかいちゃもんを付けられたときに勝ち目がないような気がしてならないんですよ。なので、そこは一回専門の弁護士の…（秋山割込み）

[秋 山]だから、前回のあれもそうだったじゃん。カスタム君のあれもそれで一回やったじゃん。版權の問題でそういうの全部抜けてて、結局あれ関西テレビに持っていかれて、まんまの方にいっちゃって、あとから関西の方がまんま君後から出したのに版權の方がしっかりしているっていうんで、版權持ってかれちゃったじゃん。で結局税関側が買い取るようになって話するようになって、あまりにも高すぎるっていうんで、やせ細ったカスタム君のほそーいのが出てきたじゃん。太ったまんまのカスタム君使えなくなったじゃん。だから浅野の言うとおり、やることきちっとやっとかないと、また問題2回3回ってくるかもしれないね。1回それやったときに、俺広報乗っててあっちこっち事務所行ったり、本省近くの法律の先生のところ行ったりとか俺らよく動いていたんだけど。話の内容聞くとそういうところが抜けてたっていうのを聞いたね、車の中で。

[鈴 木]まあ、安易にやっぱり手出さない方がっていうところも踏まえて、これ出所、国税さんがよければ使ってくださいって本当に言ったのか知らないですけど、それも含めて、アイディアはいいと思うんですけど、こういうのもあるよっていうところだけで留めて、また各地区本部がそれで必要でそれがなきゃ加入義務ができないって言うんならそういうアプローチをまたして、でもいいんじゃないですか？だって中央一括でっていうところは。

[原 川] 国税さんはもう使っている？

[倉 本] 国税使ってますよ。

[原 川] って何か問題が？

[倉 本] 問題ないです。

[原 川] 国税さんも同じような契約書？

[倉 本] そうです。そうです。

[原 川] じゃあ一旦その弁護士に見てもらって、やっていいんじゃないの？

[倉 本] わかりました。

[原 川] 向こうも商売だから、インチキな商売じゃないと思うんで。

[秋 山] だから知ってる。そこら辺やっとなないと、前回やったときのカスタム君もあるから。問題なって、関西テレビに持ってかれて、結局前例があったから。やるんならきちんとやったほうがいいですって話。

[原 川] なので、一旦弁護士に見てもらってってことでいいんじゃないですか？

[倉 本] わかりました。

[秋 山] これやれば加入率上がるんだろ？

[倉 本] 上がってほしいっていう希望ですよ。

[秋 山] 希望はわかるんだけど、それだけの金をかけるってことは、それだけもっと必死になって活動して数値をちゃんと出して答えを出すってこと？

[倉 本] 答えを出したいと。

[秋 山] 出すってことだよ。出したいじゃなくて出すんだよね。

[倉 本] そうです。

[秋 山] 出さなきゃダメなんだよね？

[倉 本] いや、そのつもりで毎日やってますから。そりゃもちろんそうですよ。いい加減な気持ちでこれどうですかっていうのはもちろん言ってないです。

[秋 山] ちゃんと答えとして数字を出すってことでいいんだよね？

[倉 本] そうですよ。

[秋 山] 出さないっていうってことはないように頑張るってことだよ？

[倉 本] そうです。もちろん。

[秋 山] 下がるようなことは絶対ないようにするってこと？現状を絶対維持するってことでしょ？

[倉 本] そうです。

[秋 山] ふーん、まあいいや。そのころ俺居ないからわかんないけど。まあいいっす。そこは皆さんで決めてください。

[鈴 木] この話は、どこで落としどころにする？

[佐 藤] 契約書の内容を御確認いただいて、そこで大丈夫よっていうのが確認できた段階でもう一回中執諮ってもらえればいいんじゃないですかね。

[倉 本] わかりました。そうしましょうか。

[秋 山] で、現状ある加入率よりは必ず現状は最低でも維持して。

[鈴 木] 現状も下がっているからね。

[秋 山]下がらないようにするってことでしょ？そこまで努力はするってことでしょ？最低でも現状は維持するってことでしょ？それ以上は絶対上にいくってことでしょ？下げないっていうのは絶対条件ですね。

[佐 藤]新人加入を増やすってことですよ。

[秋 山]それはやるしかないよ。動くしかないじゃん。動かなかつたら絶対加入率上がらないよ。それはもう数値に出るから。容易いもんじゃないぞ。俺らなんかもヤクルトファン全国に増やすためにさんざん動いたけど、ほんとそんな簡単なもんじゃないぞ。

[倉 本]じゃあまたそういうことで、進めていきますんで。また、再度ご提案させていただくかもしれません。

[鈴木]委員長これを出したってことは、加入が下がっているってことでしょ？組織率が。

[倉 本]で？

[鈴木]いや、だからそれ踏まえてこの話するんじゃないの？

[倉 本]いやいやいやいや。

[鈴木]いやいやじゃないよ。数字が下がっているからテコ入れするってことでしょ？

[倉 本]まあそうですよ。

[鈴木]ちゃんとそこ伝えないとおかしくならない？

[倉 本]なんでおかしいんですか？

[原 川]おかしいってどういうこと？だってみんなの認識の中で、組織率下がってる。うちもさ、新職が全然加入懇願しても入ってくれなくて、本当に忸怩たる思いがあるんだけどさ。

[鈴木]ていうかさ、なんだよそれ。

[原 川]なんだよそれ？

[鈴木]だってそうだろ？去年、俺と奥平がさ、約1年前さ。

[原 川]わかってる。

[鈴木]わかってる？

[原 川]わかってる。わかっているよ。

[鈴木]わかってて？

[原 川]じゃあ聞きたいんだけど、どういう風に加入懇願すればいい？中央の書記長として答えて欲しい。

[鈴木]そういう議論を…（原川割込み）

[原 川]そういう議論をしてほしいんだわ。

[鈴木]だから、そういう議論の話を今まで一度もしてねえじゃん。って言ったよね？去年の今頃。こういう風にしたらとかさ、組織率出して透明化にしてさ…（原川割込み）

[原 川]組織率下がってて、じゃあどういう風にしたらって、具体的な方策を…（鈴木割込み）。

[鈴木]ちげーよ。こっちが提案をしたら、それやだって言って断ったじゃん。

[原 川]なにが。

[鈴木]なにがじゃないよ。組織率出して。はあ？覚えていないのかよお前。

[原 川]組織率出してじゃないよ。じゃあ組織率出して上がるのかよって話なんだよ。違うでしょ？加入態勢どうして入ってくれるかっていうのを教えて欲しいって言ってんの。

[鈴木]ちげーよ。そういう議論を踏まえてまず透明化にして、それから議論しようって言ったんじゃないかよ。それがなんだよ。結局下がってて、議論も聞かなくてって聞きもしねーで。なんだよ、俺が一方的に教えなきゃいけねーのかよ。

[原 川]みんなで考えて欲しいけど、結局その議論もしてないじゃん。

[鈴木]じゃあなんで今までしねーんだよ。俺はだってそんなときさ、お前忘れたとは言わせねえぞ。

[原 川]いや、覚えてるよ？議案書に組織率載せて。

[鈴木]そう。

[原 川]それが、組織率上がることに繋がるの？っていう話…（鈴木割込み）

[鈴木]やってみなきゃわかんねえって話もしたじゃないかよ。

[原 川]で、結局反対になったんでしょ？でやらなかったんでしょ？

[鈴木]だからやらなかったっていうことは、提案を蹴ったんだから自分たちでなんとかするとか、やってるってみんな言ってたじゃないかよ。

[原 川]やってるよ？

[鈴木]やってて数字が下がってるっておかしいだろうよ。

[原 川]そんなこと言うんだったら…（鈴木割込み）

[鈴木]去年もその話しただろ。

[原 川]じゃあ載せれば上がるのかい？

[鈴木]だから載せれば上がるのかよも含めて、ちゃんとそういう風にやってみてって言ったんじゃないかよ。

[原 川]で、下がるっていう話があったから結局載せなかったんでしょ？

[鈴木]ちげーよ。

[原 川]そうだよ。

[鈴木]下がるなんて言ってねーよ。

[原 川]あんな組織率下がっているの見たら組合員一斉にみんな辞めちゃうよって話になったから…（鈴木割込み）

[鈴木]なに言ってんだよそんなの。そういう議論だったか？そういう議事録だったか？1年待ったのにそれかよ。

[原 川]1年待って上がらないって、そんなこと言うんだったらもうやらんぞ、組織率とかそういうの。こっちだって一生懸命頑張ってるのにさ、それを否定されたらさ、こっちだってやる気がなくなるよ。

[鈴木]一生懸命やっている？

[原 川]やっているよ。

[鈴木]おい、ちゃんと組織率、現状の知ってんのかお前？なあ、コロナで大変なのは

分かっているけどさ、沖縄上がってんだぞ？

[原 川]しょうがねえじゃん、こっちだって…（鈴木割込み）

[鈴木]なにしょうがねえじゃんって。どういうことだよ。

[原 川]やってても上がらないんだからしょうがないでしょ。

[鈴木]やってて上がらないなんておかしいだろ。去年も言っただろその話。

[佐 藤]いや、やってますって。だからちゃんと鈴木書記長から月報細かくしたじゃないですか。月報にね、ちゃんと採用の加入態勢やったら書くようにしたじゃないですか。月報。

[鈴木]変えたよ。だって、これじゃあ去年の今頃と全然話また一緒じゃん。ねえ。

[佐 藤]そんな中で、色々なツールが欲しいっていうのは、俺ら横浜もそうだけど、弱小地本は。

[鈴木]弱小かどうかなんて言ってないでしょ？

[原 川]じゃあなに、俺がなにもやってないってことなの？

[鈴木]違うよ。やってたとしたって、チェックしてないし、だから数字が下がるんでしょって言うてんの。そこはどうなってんの。こういう風にやってみただけど、他にアプローチあるとか聞けばよかったじゃん。いくらだって。

[太 田]やってくださってるのは、凄くよくわかっているんですよ。こっちも。でもどういう風になっているのか、その都度のお話がないから。こっちもなんともわからないから。そこを少し分析したり、議論したり必要なんじゃないかとは思いますよ。

[原 川]加入態勢してさ、やっているわけだよ。で、個別に行って話をしているわけだけど、入らないんだよね。じゃあそこどうしたら入るようにする？

[鈴木]加入態勢と個別対応って何回やったの？

[原 川]それこそ、何回もやってるよ？

[鈴木]何回もって？

[原 川]月に…会うたびに非組の人間に対しては、組合に入ってよ、なんで入らないの？って…（鈴木割込み）

[鈴木]それって、俺と奥平が言ったことやってんじゃない。

[原 川]やってるよ？なんで？それで？やってるよ？やってますよ？そんなことずーっと昔からやってますよ。新職が入ってくれば加入態勢の機会捉えて、弁当食べながら組合の説明して…（鈴木割込み）

[鈴木]結局、それって全然進展してねーじゃん。

[原 川]だからそういったので苦労しているから委員長がああいった漫画でどうですかって探してきてくれてるんで、それを是非やりたいって言うてるだけの話。

[鈴木]また、金かけんの？

[原 川]しょうがないね。金かかるの。じゃあなに、自分で手書きでやれってこと？

[鈴木]違うよ。そういうとこちゃんと検証とかしてんのって話だよ。

[原 川]やらずに検証できるの？

[鈴木]は？今までのプランの中で検証するんでしょ。ちゃんと。

[原 川] 今までやってきた中で検証は何回もやったよね。その組織率の話については。今まで中執、書記長会議を通してやったけど、結局入らないねってだけで終わってるじゃん。お前も書記長のときもそうだったでしょ？話に参加しているでしょ？

[鈴 木] してるよ。だから諦めずにやれって俺が言ったじゃん。ピンとしていない顔でみんな聞いていたけど。

[原 川] みんなやっているよ。俺もやってるよ。

[鈴 木] だから、成果が上がっていないうちはやってるうちに入らねえつつってんだよ。去年も奥平言ったじゃねえかそうやって。

[原 川] 成果がなければ、俺らは何もやってないってことになるわけなんだ。

[鈴 木] 違うよ。結果が全て…（原川割込み）

[原 川] 言ってることそうじゃん。結果がそうなんですよ？

[鈴 木] 数字が全部でしょ。それ以外になにかあるのつつってんの。

[原 川] 頑張ってるって数字が上がらないってことは認められないってことでいいんだよ？

[秋 山] もっと頑張らなきゃダメだってことだよ。俺らもだって頑張ったもん。めっちゃくちや頑張ったもん。ダメだったらもっと頑張った。ほんと頑張った。頑張ってる誠意をもって、それを見せて説明して、やってとにかくダメならダメでもいいからとにかく会ったときに必ず説明してって言うのを俺は毎年土日は俺家に居なかったから。各球場全部行ってたから。そこで会う人会う人にヤクルト応援しましょう、うち入りますかって全部に声をかけて片っ端からいった。で、丁寧に丁寧にいった。乱雑に一切しなかった。で、毎年毎年行って、会った人には必ず顔と名前を覚えて、一生懸命やった。それでみんなやってくれた。それでやってたらどんどんどん入っていく成果が出てきた。そこで、地元で僕も一緒に入りたいっていうんで、一緒にアピールしてくれる人が増えてきて、そこに残った人が逆に個別にやってくれて、会員がどんどん増えていった。だからもっと誠意をもって当たって、やっぱり信用が一番だと思うんだよ。会う回数増やすとか。それが一番大切だと思ったね俺は。日本全国飛び回って、いろんな人に会って話聞いて、色々やっていくうちに。だから俺は地方の人凄い大切にした。滅多に会えないから。神宮球場とか会う人は大切にされたけど、だから俺は顔と名前を覚えるようにした。必ずその人の。だから成果って絶対出るから。出ないわけないから。本当に努力したら出るから。俺らも出なかったときあったもん。だけど、俺ら地道にやるしかねえなっていう地道に活動をやって、さっき言ったように7万人集めた。だからやるしかないんだよ。できないじゃないんだよ。

[原 川] やってますよ？

[佐 藤] できないとは言っていない。

[秋 山] できないならできないなりにできるような工夫を考えて、それに上澄みしたように自分で考えてやっていくしかないんだよ。あとは人間と人間の心で信頼を

掴むか掴まないかなんだよ。

[原 川]わかりますけど。

[秋 山]足りないんだよ。まだ何かが。

[原 川]なにが足りないんですか？

[秋 山]自分で分からない？やってて。

[原 川]足りないのは分かっています。組合に入るメリットがないって話ですよ。

[秋 山]メリットがないっていうんだったら、メリットがないなりに、ちゃんと組合はこういうところ守りますよ、あなた守りますよとかね、ちゃんとこういう風にやりますとか利点を言わないといけないし…（原川割込み）

[原 川]それはもう十分に説明しています。でも、それでも私は組合必要ありません、なにかあれば自分でやりますって言われちゃったらもう何も言えないじゃないですか。お金がないんですって言われるんです。組合費払うんだったら奨学金を返したいですって言われるんです。そういうことに対してじゃあ私はどうすれば、お金を出せばいいんですか。

[秋 山]いやいや、お金出せとは言っていないよ。

[鈴 木]だったら、組合費を検討するとかそういう話になるんじゃないの？

[原 川]組合費検討して、削ったとして、今度活動が低下するって話になってたんじゃないですか。

[鈴 木]活動が低下するかしないかっていうのはやり繰りの話でしょ？そういうところの対案も示して、物を言うんじゃないの？

[原 川]その対案を示して、組合費検討委員会開いて、結局組合費は下げないって話になったんじゃないの？

[鈴 木]あの当時はそうでしょ？で、それで終わらせなければいいじゃない。

[原 川]じゃあ毎年毎年組合費下げてくださって、毎年毎年言った方がいいの？

[鈴 木]え？どういうこと？言った方がいいの？って言うのが仕事だろ？お前。

[原 川]組合費下げたからって入るかどうかって話ですよ。タダでするんならたぶん入ると思いますよ。

[鈴 木]ちゃんとそういうヒアリングをすればいいんだろ？いくらだったら入るとか、今組合費これだから組合費いくらだったらできるのって。この金額なら入るの？って話をするんでしょ？そういうところまで詰めるんじゃないの？

[原 川]俺は詰めなかったね。

[鈴 木]まだまだやることあるんでしょ？

[原 川]組合費下げること？

[鈴 木]違うよ。

[原 川]ごめん、なにをやるの？まだまだやることあるんでしょって言うんだけど、じゃあなにをやればいいの。

[鈴 木]なにをやるのってなによ。お前役員何年やっているの。

[太 田]寄り添って考えてあげないと。

[原 川]え？

[太 田]原川さんが入ってくれない人にちゃんと寄り添って考えてあげないからでしょ。なんか話聞いていたら。その人がお金がないって言っているのをじゃあいくらなら組合費払えますかって。一人一人に。ちゃんと寄り添って聞かないからじゃないの？私そう思うな。

[原 川]じゃあ今度聞いてみますよ。組合費いくらだったら入るって。

[太 田]お願いします。

[秋 山]うちは、地方の人は年会費 1,000 円。一人。後援会と応援団の会費ってなったときに地方の人は 1,000 円。東京神奈川埼玉は、月一人 4,000 円。年会費取ってた。

[原 川]わかりました。すみません。ヤクルトの応援団の話と…（秋山割込み）

[秋 山]いやいや、だからそういうやり方も同じなんだよ。勧誘を増やす。だから、組員を…（鈴木割込み）

[鈴木]なんでせっかくお前のために言ってやってんのにちゃんと聞かねえんだよ（原川に向かって）。

[秋 山]お金がどうのこうのって言うから言っただけで、組織率上げるにも人数増やすのもやり方は一緒なんだよ。俺らは誠意をもって地方に行くときは神宮から色んな、あの子たちが逆に神宮に来た時には俺ら凄い世話したよ。色々やったよ。希望するようなこと。そうやって地道にやってきたら信頼関係っていうのが結ばれてくるんだよ。何回も何回もするんだよ。同じことを。それを繰り返すんだよ。今すぐ入れとは言わないんだよ。入りたいときになったときに入ってくれて俺ら来るものは拒まずで全員が全員ちゃんとそれなりの対応したんだよ。それはみんな守ってくれて。お年寄りだろうが小さい子供だろうが関係ない。女だろうが男だろうが一切関係ない。とにかくヤクルトファンを増やす。今ヤクルトを盛り上げるために会員数をどんどん増やすって。で、みんなで交流深めて古田を呼んでパーティー開いたりとかそういうのやるために、どんどん増やすって俺らはやった。私物のお金もどんどん使った。同じなんだよ。

[原 川]わかります。ヤクルトに入ってくれる人は、ヤクルトをよくするためにやって、入ると…（秋山割込み）

[秋 山]ヤクルトファンじゃなくてもそれを見て入りたいって言う人も来るんだよ。

[原 川]なにかしらのメリットがあるわけですね。古田さんに会えるとか。

[秋 山]だから会わすように努力したんだよ。俺らメリットなんか最初から考えてないよ。メリットなんかないよ。あとから生まれてくるもんなんだよ。メリットなんか。

[原 川]じゃあ組合に入るメリットはなんですかっていったら処遇関係ですね。

[秋 山]処遇関係のメリットだって、俺らだって最初は何にもないよ。好き勝手やって、とにかく同じ志をもった仲間楽しく仲良くやろうってそれだけだよ。

[原 川]それはヤクルトさんの話ですね？

[鈴木]なにをメリットとするかはその人次第なんじゃないの？処遇はあるかもしれないけど。

[原 川] だから、結局そのメリットが処遇が上がらないって言ってるんです。

[鈴木] で、処遇上げるためになにかできるのかって。

[原 川] やってるけど、級別取ったりしてるわけでしょ？交渉して組合員から上げるようにしていても、現実問題上がるのは非組から上がっているのが現実じゃないですか。

[鈴木] そこはなんでなの。

[原 川] 当局サイドの話だから。

[鈴木] なんで当局サイドの話なんだよ。人事評価とかあるだろ。

[原 川] 同じ人事評価でも…（鈴木割込み）

[鈴木] 同じなのほんとに？上がった人と。

[原 川] それでも結果、非組から上がっている実例があるじゃん。

[秋 山] 攻め方色んな攻め方しなきゃダメだよ。一つの形に拘って…（原川割込み）

[原 川] でも、うちらに対しての俸給だとか処遇関係は、グリップは向こうが握っててなってる話でしょ？じゃあそこをやってほしいのに組合に入っても結局非組が先に上がっていくって話になって。人事評価制度の説明もしますよ。A取らないと今上がらないから、A取るように例えばどうすればAに上がれるかっていうの管理者に聞いてください、そういうのをやってくれて組合員に説明していますよ。

[鈴木] 処遇じゃなければ配転とかさあ。他にもあるじゃんいろいろ。

[秋 山] これ、参考までにね。奥平に相談してね、A評価どうしても取りたいって言ったら、奥平からこういうこと全部やってくださいってきたんだよ。俺、それを成田にいる時に全部やったんだよ。講習から実地から全部やったんだよ。運転の講義に関しても全部やった。みんな嫌がるんだけど俺やった。おかげでA 2個付いたよ。奥平の言ったとおりに書いて、奥平に言われたとおりに全部やったら、成田で1年間でA 2個付いたよ。ちゃんと評価してくれたよ。だからやればちゃんと答え出てくるんだよ。それで奥平に感謝したもん。お前のお陰でA 2個取れたって。初めて言われたよ。前期もA、後期もAって言われたの。Aは貰っていたよ。たまに。でもそのあとBだよ。必ず。Aはなかった。だけど成田行ったときはちゃんとAが2個続いたから。俺、あんどき本当に嬉しかったよ。奥平には凄い感謝している。

[鈴木] 他の地区本部さんで高い組織率がいいとしても、低い組織率のところは改善できてないんでしょ？

[前 田] なんです、うちにくるんですか？

[鈴木] どこもそうですよ。みんなそうですよ。大阪さん今日いないし。別に分かっていますよ。前田さんとか、佐藤裕一とか、齋藤のせいじゃないのは分かっていますよ。その前から低いのも分かっていますよ。

[佐 藤] 100人の阪神ファンをベイスターズファンにしろっていう状態でやっているんですよ。俺ら。

[秋 山] でも、やりがいあって面白いんじゃない。

[佐 藤] そんな中で、さっき前田から話があったとおり、加入懇懇を初め役員皆で行ってやってたら、取り囲まれただなんだって言われたからやり方変えようって変えて、横浜と大阪が一番初めに、裁判で負けたときに、もう当局が見放して、会議室も貸してくれないだなんだっていうのがあったときも、歴代の鳥居さんとか山内さんとか戸田さんとかっていうのがみんな、なんとか当局と取り持って、会議室も貸してもらえるようになり、今年なんかは、本当は基礎科が帰ってきたときに、いつもだったら4月1日に委員長が手紙を置いて戻ってきたときに組合の説明をさせていただきねって紙を置いて、戻ってきたら人事と研修をお願いして、会議室そのまま貸してくださいって、ようやくそこまできた中で、今年は当局が4月1日に入って説明していいですよって前田さんが説明に行けるような状況とかやってる。だから、原川さんもやっている。ただ、今鈴木書記長が言ったみたいに、いやお前ら数字落ちてんだろ？って言われたら、俺ら申し訳ないけどもうなんにもやりよう無くなっちゃう。だから、ダメなところは、ダメなりに頭ひねってやってるっすよ。加入率高いところに、だ一って言われたらうちわね。そんな中で、今回そういうパンフレットを中央が主導で作ってくれるよって言ったら、うちとしたらありがたいとしか言えない。だって、自分たちであんな漫画描けない。

[前 田] うちの、乗れるもんは乗りたいんですよ。なんでもやりたいんですよ。努力したいんですよ。

[鈴木] だから、認めてないわけじゃなくて。

[佐 藤] けど、組織率上がってねえじゃんって言われたらズキってなる。

[前 田] もう、なにも言えないですよ。せっかく委員長が考えてくださって、版權の交渉もしてくださって、加入懇懇の一助として、こういうことを苦労して考えてくださったんで、そこは認めていただけませんか。

[鈴木] まあ、版權の出所が確かだったら僕もそれは重々いいんですけど、入手ちゃんとしてますよね？

[倉 本] ん？

[鈴木] 入手。ちゃんとしてますよね？国税さんから提供受けたみたいな…（倉本割込み）

[倉 本] ああ、そうですよ。はい。

[鈴木] 国税の委員長知らないでしょ。この話。

[倉 本] 国税の委員長は知らないですよ。国税の副委員長と私やり取りしているんで。

[鈴木] 国税労組として了をもらったわけじゃないでしょ？

[倉 本] 国税労組としては国税労組として版權を持っているし、うちのうちとしてだから。

[鈴木] ちがうよ。国税労組さんの委員長にちゃんと面を合わせないでこれ使って、後でなんか言われたいの？

[倉 本] ないですよ。

[鈴木] なんで？

[倉 本]だって、交渉相手が違うじゃん。要は、契約者はうちとアニメーション。

[鈴木]これどうやって知ったのって話のニュースの出所が出たときに、そういう入手したって話がどっかで漏れ聞こえたらどうするの。国税さんにそっぽ向かれるだけだよ。まあ、今もそっぽを向かれていますけどさ。いいのそれ？

[倉 本]なんでですか。なんでそっぽ向かれるんですか。

[鈴木]だから、委員長にちゃんと通してないでしょ話。書記次長あたりからこそっともらってきたんでしょ？ちゃんと筋通さないといけないでしょ？

[佐 藤]じゃあ、国税の委員長に使わせてもらいますって了解を取った方がいいんじゃないかって話ですよ。

[鈴木]だって、しれっと国税さんから提供あったなんて言ってますけど、違うでしょそれ。そういう話ちゃんとしてあげないと、かえって迷惑かけますよ。こっちに。

[倉 本]いやいや。

[鈴木]いやいやじゃなくて。迷惑かかるでしょ。

[倉 本]それは、実行したときにかかるわけでしょ？

[鈴木]実行するって話をしたじゃない。前提が違うでしょ。

[倉 本]だから、そこはちゃんと確認しますって言ったじゃん。

[鈴木]はあ？

[倉 本]は？じゃねえ。

[鈴木]は？じゃねえじゃねえ。詰めが甘いだろうよ。危ねえって。

[倉 本]ああ、そう。分かりました。分かりました。また確認します。

[鈴木]そんな話を皆さんにね、しかも、すがりたいなんて人に言ったら、はいはいはいはいついて行っちゃって、後でなんか揉めたときにどうすんの？責任なんか取れないでしょ？

[佐 藤]そういった意味で、浅野君が言ったみたいに、契約書はしっかりしましょうねとか、鈴木書記長が御懸念だった国税さんから話を受けた、お宅もどうですって言われたんだったら、国税の総連合だっけ？総連合の委員長に仁義を切れば。

[倉 本]だから別にそれは国税から受けたって言わないでいいじゃないですか。

[齋 藤]紹介をされたっていうこと。

[倉 本]そう、紹介をされたって話だけ。契約はうちがうちでするんだから。

[鈴木]ご紹介があったっていう時点で、こういうのどうなのっていったら、正式にそこは委員長に筋通す話でしょ？

[倉 本]いや、別に通さなくていいじゃないですか。うちがうちで契約するんだから。契約は単体なんだから。なんでですか。

[秋 山]筋通しておいたほうがいいと思うよ。あとでなんかあったときに…（鈴木割込み）

[鈴木]そんなお前筋通さない話あぶねえよ。

[倉 本]なんでですか。なんで危ないんですか。それはあなたの思い込みでしょ？

[鈴木]思い込みじゃないよ。筋を通さない…（佐藤割込み）

[佐 藤] 皆さん、御懸念なんだから、倉本委員長も国税の委員長に一言、副委員長から話をいただきましたが、その辺の経緯は俺も詳しくは知らないけど、一応トップ同士で筋通してうえて、浅野君御懸念の契約書がちょっとちゃっちく見えるから、然るべきところに確認して、問題の内容な形にしたうえて、横浜地本としてはGOしていただけると、非常に助かるってことでよろしいですか。

[倉 本] わかりました。

[佐 藤] 鈴木さんが言っているとおり、このまま進めるってなんか問題が起きたときに、横浜だけ配ってるぞってならないようにって御懸念もわかるんで。

[鈴木] だって、そっちが責められちゃうわけでしょ？そんなことやってら。

[佐 藤] なんでこんなの配りやがったんだってなるってことでしょ？

[鈴木] そう。事情も知らないとななるでしょ。一事が万事危ないよ。そういうのは。委員長。

[倉 本] ああ、わかりました。

[鈴木] ああ、わかりましたって軽いけどさ、火傷するのは使っているところだからね。ねえ、委員長。

[倉 本] ああ、わかりました。

[鈴木] いや、こっち見て喋ってよ。ちゃんと。なあ。

[福 本] 長崎も横浜さんと気持ちは同じで、やっぱり最近の若い子って一筋縄ではいかないんですよ。昔は半分勢いでみんなで入れって言ったらわかりましたなんですけど、今の子は考えるの余裕ありますし、一筋縄ではいけないので…（秋山割込み）

[秋 山] 確かにそうけどさ、十人十色だからそれなりの違う攻め方していかないといけないんじゃないの。

[福 本] いろんな攻め方のツールとして、それを御準備していただくのはすごいありがたい。ただ、私もぱっと見、契約書なんて書いてあるかって思うくらいよくわかんなかったんですよ。普通、ああいうのってパソコンかなんかでばしって、印鑑かなんかでやるのかなって思ったらよくわかんなかったんで。その辺はしっかりしていただいて、なんかあった時のためにですね。

[鈴木] きちんと話の筋をとおして、一式もらってこういうのもありますよって紹介であれば別に僕は問題ないと思っていますけど。

[佐 藤] 堂々と配れるようにしていただければいいのかなと。

[倉 本] ああ、わかりました。

[佐 藤] まあ、今回こうやってセミプロみたいなのに頼むの初めてのことだと思いますし。とりあえずは。

[鈴木] 金額がそこまで安いものではないので、そこはきちんと確認したほうがいいと思います。

[佐 藤] もしも逆に中央の方でそこまで手配してもらって、使いたって地本はちょっとずつ金、出所一緒って言われればそうなっちゃうけど、金ちょっとでも出してって言うんだったら全然、なんなら横浜 24 万だしますよ。すぎる思いっす

よ。こっちは。正直。

[鈴木] まあ、ただそこは筋通してもらってことで。あとやっぱり残念なのは、組織率下がっているんで、私としては去年1年前のくだりもあるから、そこはどんなのって話は…（佐藤割込み）

[佐藤] みんな手を変え品を変え、それこそ前田委員長なんかもそうですけど、奥平さんが言っていたとおり、すれ違ったときにお前組合入ってなかったよね？って声かけるっていうのも齋藤雅紀なんかもやってて、入っているし。ただ、その分出ていく人もいるわけで。

[鈴木] もちろんそうです。そういうところからやっていかないと。組織先細りになっちゃうし。

[佐藤] それを打開する一つの手段として今回中央が作っていただけるんだったらありがたい限りですよ。

[鈴木] もちろん。当然。だから、出所がよければ僕だって別にしっかりするし。その辺の話するとお前なにもやってないから絡むなって言ってくるしね。

[佐藤] 冒頭からそうなんですけど、そこの二人の関係をこっちに持ち込まないでくれる？そこから今日ずっとそれが続いているからさ。今日、いつも以上に続ける。

[鈴木] ごめんね。前回ちょっとやられちゃったところがあるから。

[齋藤] 加入懇話については、本当に書記長会議でずっといろんな人に色んなやり方を聞いて、手を変え品を変え、実際ダメだったらこれやろうあれやろう、でさっき言っていた奥平さんについても俺がやってみるよってやってもらってもダメだった。そういうのも実際あった。

[佐藤] 横浜って奥平さんがきて玉砕しているんだよね。

[齋藤] 大阪も確かそうなんですよ。

[佐藤] 奥平さんが実際に来て、新人の研修のときに声かけて中央の書記長がきたよってやっても横浜誰一人入ってない。玉砕しているんだよね。そういった中で毎回、俺委員長4年やっちゃったけど、委員長変わるたびに手を変え品を変えやっているわけですよ。名古屋は原川さんずっと委員長やっているけど、原川さんも手を変え品を変えやっていると思っていただきたいな。中央には。

[鈴木] まあ、だけど僕はどうしても去年のことがあるんで。申し訳ないけど、ちょっと残念だったという気持ちの方が大きい。

[佐藤] ここにいる方だと横浜と名古屋は顕著なんですよ。ビリ2、ビリ3だからね。

[原川] 俺がなにもやっていないと思われるのほんとうにあれなんだけど。はらわたが煮えくりかえっているんだけど。そう決めつけられたら。

[鈴木] 去年言っただろ。下がってるって。下がっている現状でどうすんのって。

[原川] やってるけど下がっているんだよ。それをいかにもやっていないような…（鈴木割込み）

[鈴木] やってるやってるって言って下がっているじゃねえかよ。

[佐藤] もとに戻ってるって鈴木さん。

[原 川] 具体的な案を出してくれる？

[鈴木] はあ？

[原 川] こうすればいいって教えてよ。

[鈴木] だからこういう風に組織率出して、透明図ってそれでみんなから危機感煽ってやろうって言ったのを覆したんじゃないかよ。

[佐 藤] みんな危機感持ってますって。俺らもそうだけども持ってますよ。

[原 川] 大会でも言ってるんだけどね。組織率下がっているって。

[佐 藤] だから恥ずかしくてしょうがない。情勢報告で東京が何人入った、福ちゃんも長崎何人入ったって言うでしょ。沖縄もほとんど入っているって言う中で、はあ一ってなるわけですよ。手を変え品を変えやってはいるんだけど、うーんってな中で、だ一ってなるとしゅんってなる。

[鈴木] でもその辺はちゃんと話し合わなきゃいけないでしょ。

[秋 山] 聞いてみりゃいいじゃん。なにを求めているか。その求めていることに対して話して提示して…（鈴木割込み）

[鈴木] それやっていかないと進まないでしょ。ねえ。

[原 川] じゃあ組織率出すの？

[鈴木] なんで1年経って出すとか。

[原 川] だって、出せって言うから。

[鈴木] ちげーよ。1年前に出すな言ったんだろ。

[原 川] 1年前に否決されたから名古屋は悪いって論調でしょ？

[鈴木] 論調がずれているだろ？前提も。

[原 川] かみ合わないでいいや。

[鈴木] かみ合わないってなに。

[原 川] 俺は組織率上げるためにはどうすればいいかって方法を聞きたいんだけど、それが1年前に組織率出さなかったからって言われたら、じゃあ組織率出せっていうことだよって話。

[鈴木] 組織率出すだけじゃないでしょ。他にも言ったでしょさっき。

[原 川] やってるってそういうこと。毎日会う度に非組の人間に組合入って組合入って、組合入ったら守れるし職場環境も変えられるしっていう話もしているし、新聞も配っているし、非組にもね。考えられることはやっているから、俺が考え付かないことを教えてよってこと。

[鈴木] なんで今更それ言うの？

[原 川] 言ってくるからだよ。やってないって。

[鈴木] だって、1年待ったんだよ。

[佐 藤] 1年待って結果が出なかったからまた来年やり方変えて。

[鈴木] そしたら組織は下がる一方だよ。

[原 川] 1年やってダメだったから教えてって。

[鈴木] なんでそうやって開き直って言うてくんの。俺がどんな思いで言ったと思ってんだよ。

[太 田]原川さんでも、教えてって言ってもそれ本人に聞かないとなんで入らないのか…（原川割込み）。

[原 川]金。金。脱退した人間に聞くのは全て金。あとはメリットがない。

[太 田]金って言うけど、東京だって金の理由でみんな辞めていきますよ。でも聞けば他に理由ありますからね。そこじゃないかなって私は思いますね。

[原 川]金じゃない理由はなんでしょう。

[太 田]お金じゃないとすれば要するに組合にメリットがないっていうふうにみんな言うけれど、それは要するに自分にやってほしいことを組合はやってくれない。自分の意見を聞いてくれないとか。そういうことでしょ。

[佐 藤]今やってほしいことがないんだよ。税関恵まれているから。

[太 田]相手のニーズを聞き出して答えていくかですよ。

[佐 藤]逆に組合やっていたら役員やらされて余計な仕事させられると思うからね。

[太 田]それはあるかもしれないけど。

[佐 藤]そこをちゃんと説明しているよ？みんな説明していると思うよ？だから話は戻るけど、そのツールの一つでお願いしますよ。

[倉 本]まあ、分かりました。さっき佐藤さんが言われたように国税さんとかにちゃんと確認します。

[鈴 木]まだ、太田が喋っているよ委員長。

[太 田]すみませんねえ。なんか委員長。ツールの一つでなにか解決できるなら分かります。でもそれで解決できるかどうか今のところ計画が想定がわからないわけでしょ？

[倉 本]いや、処方箋の一つとして使うってことです。

[太 田]だからそれが具体的にどうやって、組合員の人たちが加入していくのか、その想定がまだできていないんでしょ？

[倉 本]できていないって、そんなのできるわけじゃないですか。イラストを導入したことによって、100 人加入できますって保障があるんだったら、私こういう保障がありますから大丈夫ですって言えますけど、そういったものを逆に提案できるんですか？太田さん。

[太 田]いや、だから提案できないんだったらやめたほうがいいんじゃないですか。別の方法を考えた方がって。24 万円、そのお金が無駄になってしまう可能性があるわけでしょ？

[倉 本]可能性を言い出したらなにも出来ないと思うんですけど。

[太 田]だからそのためにみんなで議論して分析をしてきちんと PDCA 回していくんでしょ。その議論が足りていないでしょっていうつもりで私言ったんだけど。違うんですかね？

[鈴 木]結局のところ、そこについて誰もこういう風にやってみたけどダメでしたって意見もないし、こういう風なアプローチをしたけど、どうにもなりませんでしたって相談もないし、そういう声をどんどん聞かせて欲しかったんだけど、そういう御報告もないから、それじゃあこちらもなにも言いようないよねって話。

で、中央がこうやって提案するって一つのプロセスかもしれないけど、その前にまず各地区本部でそこはどうだったんだっていう検証をして、それで上げてきて、初めて中央でやるんであって、中央が汗をかいて提示するのはそれはそれで一つあってもいいかもしれないけど、そうじゃないでしょって話。そこをちゃんとわかってもらってないと、結果はついてこないんじゃないですか。

[佐 藤]ズキズキですよ。

[鈴木]俺もそうなった一端の責任は多分あると思うから、ここにいる全員に責任があると思っている。ねえ委員長。

[倉 本]まあそうです。はい。

[鈴木]責任の一端は自分にもあるし、中央書記局含めて今の中央執行委員全員でしょ。そこをちゃんと踏まえて数字見ないと、どうにもならないでしょ。

[佐 藤]数字はここにいる人たちはみんな見たじゃないですか。

[鈴木]そこからまた下がっちゃっているわけでしょ？高いところだって微減はしているよ？だからこそそういう話をどこかの場でしないと全然進まないよね。そこ冷静にさっき太田が言ったみたいに冷静に分析をして、じゃあどうするっていうところにいかないとダメなんでしょうけど、ほんとはその話を1年前にしているわけで、そのうえで現状っていうのはどうなんですかっていう話もしないといけないよね。

[原 川]それがこの場であってもよかったんだよね。前回の8月から今日までの間に1回2回あってもよかったんだよね？中執の中で。

[鈴木]こっちが話すの？

[原 川]うん。だって集めているわけでしょ？その情報のあれを。毎月毎月。

[佐 藤]今ちょっとあれだったけど、結局あれですか。その報告がほとんどなかったってことですか。なるほど。

[鈴木]委員長からはWEBでもいいから勉強会でもとありましたよ。そういうのも説明はしましたが、メール、WEBでもいいんで勉強会やりますからいくらでも言ってくださいって言ったのにも関わらず、なにもない。

[佐 藤]勉強会どころかレクだって今できないんだもん。

[鈴木]それを言い出したらキリがないじゃん。

[佐 藤]だから、いろんな手を考えてやってますよ？さっき秋山さん鈴木さん言っているみたいに数字に出てねえってことはやってねえってことだろの一言で片づけられちゃったら俺らやってられないよね。

[鈴木]じゃあ他になにがあるの。

[佐 藤]なんだろうね。

[鈴木]だからそこだよ。

[斎 藤]前回の去年の10月11月？書記長会議のときに、じゃあ加入ができているところの態勢ってなにを使ってやっているんだろっていう話をしました。見ました？議事録。

[鈴木]見ましたよ。

[齋 藤]で、結局そこでそれを取り入れても結局はその場で入る人は一人もいないんですよ。横浜では。説明して持ち帰りますっていうのが多いんですよね。そのときに、いかに相手にインパクトを与えるか申し訳ないけど文字だけ見てたってそんなんじゃない絶対入らないです。だから今回品を変えてみてこういうのがあったらどうかっていうのがあったわけですよ。実際の話、どこまで効果があるのかは分かりません。ただ、人に与えるインパクト、そこを見ようと思うところからまず始めなきゃいけない段階になっちゃってるんですよ。横浜は。誰がなんて言おうと結局は話を聞かないんですよ。その機会も与えてもらえない状況なんですよ。それを個別に当たって話をしている。そういうことをもう何年もやってきている。人が変わっても結局は聞く耳を持つか持たないかですよ。それは個人そのものなんですよ。だからそれをいかに聞いてもらえる体制をつくるか。実際職場で一緒にお菓子を配ると、私加入しろってことですか？そこまで言われてしまう世界なんですよ？横浜って。俺はそういうのを受けたうえでさらにそれでもやる。お前にそういう気持ちがあって配るわけじゃないって。そこまで言わないといけないんですよ。そのうえで話をしているんです。全部が全部同じように当てはまるわけじゃないんです。そういう思いもあって、そういうふうにはやってきているんです。ただ、実際それで加入率が低くなっている。それは確かに受け止めていますよ。だからどういう風にするかっていうのは考えてやっているんですよ。みんな。ただ、実際のところ方法としては、なんでもとりあえず試したい。だから今回こういうツールとしてあるのであれば、それを利用してどこまで変わるか、そういうのも当然やってみたい。そういう思いがあったわけですよ。

[佐 藤]横浜として言えば、中央主催で勉強会開いてもらっても組合員は多分行かないです。それがわかっているところで。だって、さっきお菓子配って話したけど、仕事で判子とサインくれって言ったら加入届じゃないですよって言われるくらいなんだから。そんな中でやれることは、やれることはやってるんだよっていうのはわかっていただきたいというんで、数字が数字がって言われるんだったらもうごめんなさいとしか言いようがないです。

[秋 山]横浜の現状がわかんないからな。だからおれがそういう風に言っちゃてるんだな。ごめんね。

[佐 藤]いえいえ。

[秋 山]状況が違うもんな各税関によって。

[鈴木]じゃあできているところにはどうすんの？沖縄なんて上がっている。

[佐 藤]ね。そう。

[鈴木]東京も高い数字持ってるよ。

[佐 藤]持ってるね。

[鈴木]で、どうすんの？って話だよ。

[佐 藤]太田さんが言うように、これで PDCA で来期どうするかを考えるってことですよ。とりあえずは。

[鈴木] 変わらない可能性の方が高い気がしないわけではないけど。

[佐藤] その中でツールを1個増やしてくれるっていうのは、横浜としてはありがたいです。

[原川] こっちも顔を合わすと脱退したいって言うてるの。それをいかに押し留めているか。会う度に辞めたいんですけどって。

[鈴木] 正直、今回の組織率の話、俺なんでこんなに食いついたのかって言ったら、現時点の話を東京のOBに見せたらもう無理だろって言われちゃったよ。俺説教食らっちゃったよ。なんで東京これで黙ってるの？って。芋づるで引っ張られるよって。東京の組合員だって皆さん仰ったように昇任格引っかかっちゃってるんですよ。うちの同期もまだ監視官で3級のやつとかもいるんですよ。申し訳ないですけど、その人たちに申し向けができないですよ。こっちも。こっちは現行の組合員を昇格するのだって必死なんですよ。高い組合費払ってもらっているわけですよ。その人たちが昇格しないとか、昇給しないとかっていう現状をみると、あそこで組織率がある程度一定であればそれは仕方ないと思うんだけど、そうじゃないじゃないですか。高いところと低いところが如実に出ているじゃないですか。そういう現実知っています？どこもそうだと思いますけどね。今特に税関なんて頭打ちなわけですよ。そういう人とたちになんとかならなかったのって言わない人も言わずに我慢している人もいるし、言うてる人もいるわけですよ。なんて答えればいいのか？俺はそれに。いや、どこの地区本部も頑張ってるって言うの？

[佐藤] 鈴木さんが頑張らないって言われちゃったら俺らどうしようもないよね。嘘とは言わないけど、それが数字で見えないって言われちゃったんだったらもう中央の書記長に言われたらグサッとしかこないよね。

[鈴木] 言いたかないけどね。

[佐藤] いや、今言ったじゃん。

[鈴木] 言ったよ。下がってるからね。で、実際東京の同期もまだ監視官とかいるしね。そういうところ見れば東京だって立ってられなくなってきたんですよ。なあ浅野。

[浅野] そうですね。私も同期70人くらいいる中で、上席になっていないの私を含めて20人くらいですかね。全然組合やっているからって昇格が早くなるってわけでもないし、優遇されるってわけでもなし、寧ろが一が一言っているから当局から疎まれているなとは思いますが。とりあえずやっているからしょうがないかなとは思いますが。せっかく発言権いただいたんで、色々思うところ言わせていただくと、私が書記次長をやっていたとき、毎月やっている月報の報告を変えますという話がありました。どこが変わりますっていう話になったときに、脱退者、加入者、毎月数字で色々上げていますが、その理由をちゃんと確認しろと。ということで月報の方式が変わりました。それはもう7年くらい前ですかね。要はそのときに理由を確認しろっていう話は出ていたはずなんですよね。そっから先、加入率が落ちたっていうことは、結局理由を聞いても有

効な手立てを打ててなかったという結果論からするとそういうふうになって
しまう。先ほど、鈴木さんが仰っていたように、色々OB から叱られて芋づる式
に少なくなっていくという話もそうなんですけど、お金の問題も一つありまし
たけど…

——ここで会議室の使用時間終了の連絡がきたため、中断となった——

[鈴木] まあ、申し訳ないですけど、私最後言ったのが全てなんで。このままだと立っ
てられないんで。それで責任どうこうって言われるんであれば私はもうここ
にはられません。

[佐藤] 責任どうこうは言ってないですよ。

[鈴木] 言ったことに対してね、なにかしろって言わんであれば、もう無理。ねえ委員
長。

[佐藤] だって、責任はこっちにあるから。

[鈴木] だけど、またなんか言ってくるんでしょ？

[倉本] なにを？

[鈴木] なにをじゃない。どうまとめるんですか？

[倉本] だから、またこの続きについては、第2回の書記長会議っていう話でしょ？

[鈴木] え？もう終わりなの？今日はこれで時間終わりだけど。

[倉本] 今日のこと言ってるんじゃないんですか？

[鈴木] はあ？別に WEB でもなんでもできるでしょ。月曜日とか都合がいいときに。

[倉本] やるんですか？

[鈴木] え？いいの？このまま終わらせて。

[太田] 是非やりましょう。

[倉本] わかりました。じゃあまたやる形で調整しましょう。

以上